London Business School

MBA受験体験記

第1志望校合格の掴み方

Ryohei SAKAMOTO
ryoheisakamo1986@gmail.com
May 2016

はじめに

- 私は、MBAを受験するに当たり、様々な方にお世話になり、ご支援、アドバイスを戴きました。
  最終的に、満足のいく結果を残すことができたのも、そういった皆様のおかげでした。
  この場を借りて、感謝申し上げます
- 特に、MBAの先輩や卒業生の皆様は、忙しい中、寸暇を惜しまずにご協力を戴きました。
  そういった方々が、常々「Communityへの貢献」を行うことを忘れるな、と仰っていました

- MBA受験生として、様々な形の貢献があると思っています
  - 社費生として送りだしてもらう勤務先への貢献
  - 推薦を戴いた方、アドバイスを戴いた方、その他サポートしていただいた方への恩返し
  - 進学先の学校のコミュニティへの貢献
  - 日本人MBAホールダ―のコミュニティへの貢献
  - 世界のBusiness Professionalsのコミュニティへの貢献
  - Societyへの貢献. . .　　等、様々な貢献の仕方があると思います

- 私は、この受験体験記執筆の筆を取ることで、その貢献を始めたいと思っています

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

自己紹介・バックグラウンド

自己紹介

- 男性、29歳（受験時）、独身　日系コンサル勤務・社費派遣
- 大学：法学部　（国際関係専攻）
- TOEFL 106 (R28, L27, S23, W28)　（入社時に受けたTOEIC:980）
- GMAT 680 (V31, Q50, IR7, AWA5.5)
- GPA 学部3.5/4.0
- 海外経験：学生時代に3か月トルコにインターン、2012-15年の間に現地法人の立ち上げで、インドに3年駐在
- 課外活動：バドミントン（社会人サークル@日本、インドでの邦人サークル、インドでの日本代表チームサポートのボランティア）、AIESEC（学生時代のNPO活動）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

本受験体験記について

- 初版の為、誤字・脱字等が多いことと、メッセージが荒削りな可能性があるので、フィードバックいただけると助かります
- なお、ここに書かれた内容は坂本の1受験生としての個人的な感想であり、全員にフィットするはずはないので、あくまで最終的には諸氏の判断に基づいて解釈いただければ幸いです
- 特に、自分の場合はTOEFL、GMATよりもその後のEssayやInterview対策で苦労しました。また、この2つをいかにうまく乗り越えるか、こそがMBA受験の要諦だと思っています
- しかし、中々情報収集～エッセー・インタビューに対する指針となる書籍は、InterfaceのDevalier氏著「日本人のためのMBA エッセイ インタビュー キャリア対策」をおいて他にはあまりなく、試行錯誤をしながら対策を進めました
- 私は幸いにも前出のDevalier氏の指導を仰ぐことができましたが、同じような悩みを抱える諸氏にとって、私の経験が少しでも参考になれば、と思い筆を取りました

Version情報

- 2016年5月2日　ver. 2.0　　Interface向けに修正
- 2016年4月25日　ver. 1.0　社内の派遣留学生説明会向けに作成

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

CONTENTS

1 MBA 受験プロセスの総括と大方針
MBA APPLICATION PROCESS OVERVIEW

2 TOEFL・GMATの効率的スコアメイク
EFFICIENT TEST SCORE MAKING

3 目的をもった情報収集・志望校選定
GOAL-ORIENTED INFORMATION CORRECTION

4 ESSAY及びAPPLICATIONの指針
DIRECTIONS FOR ESSAY WRITING & APPLICATION

5 INTERVIEW & CAMPUS VISITの戦略
STRATEGY FOR INTERVIEWS AND CAMPUS VISIT

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

1. MBA 受験プロセスの総括と大方針

最終的な成果:
8校出願→8校に合格、悩んだ末最終的にLBSに進学

最終的なMBA受験の結果

学校	国	出願	Invitation	Interview	Visit	Offer	Decision
INSEAD	仏/SG	3rd (1/13)	3/1	3/4~5	未実施	3/17（合格）	辞退
LBS	英	2nd (1/5)	2/4	3/4	実施	3/23（合格）	進学
Stanford MSx	米	2nd (1/12)	2/23	3/8	未実施	3/22（合格）	辞退
Cambridge	英	3rd (1/8)	1/26	2/24~25	実施	3/4（合格）	辞退
IE	西	Rolling	2/15	2/22	実施	2/26（合格）	辞退
ESADE	西	2nd (1/19)	1/27	2/10	未実施	2/12（合格）	辞退
HEC	仏	2nd (2/1)	2/9	2/28~29	未実施	3/4（合格）	辞退
IMD	瑞	2nd (2/1)	2/4	3/1	実施	3/9（合格）	辞退

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

MBA準備プロセスは5ステップの長丁場。

“MBA Application is All About Time Management”

- 様々意見があるがOne-By-Oneで進めることを強くお勧めする
- 順番も基本は下記の通りで変えられない

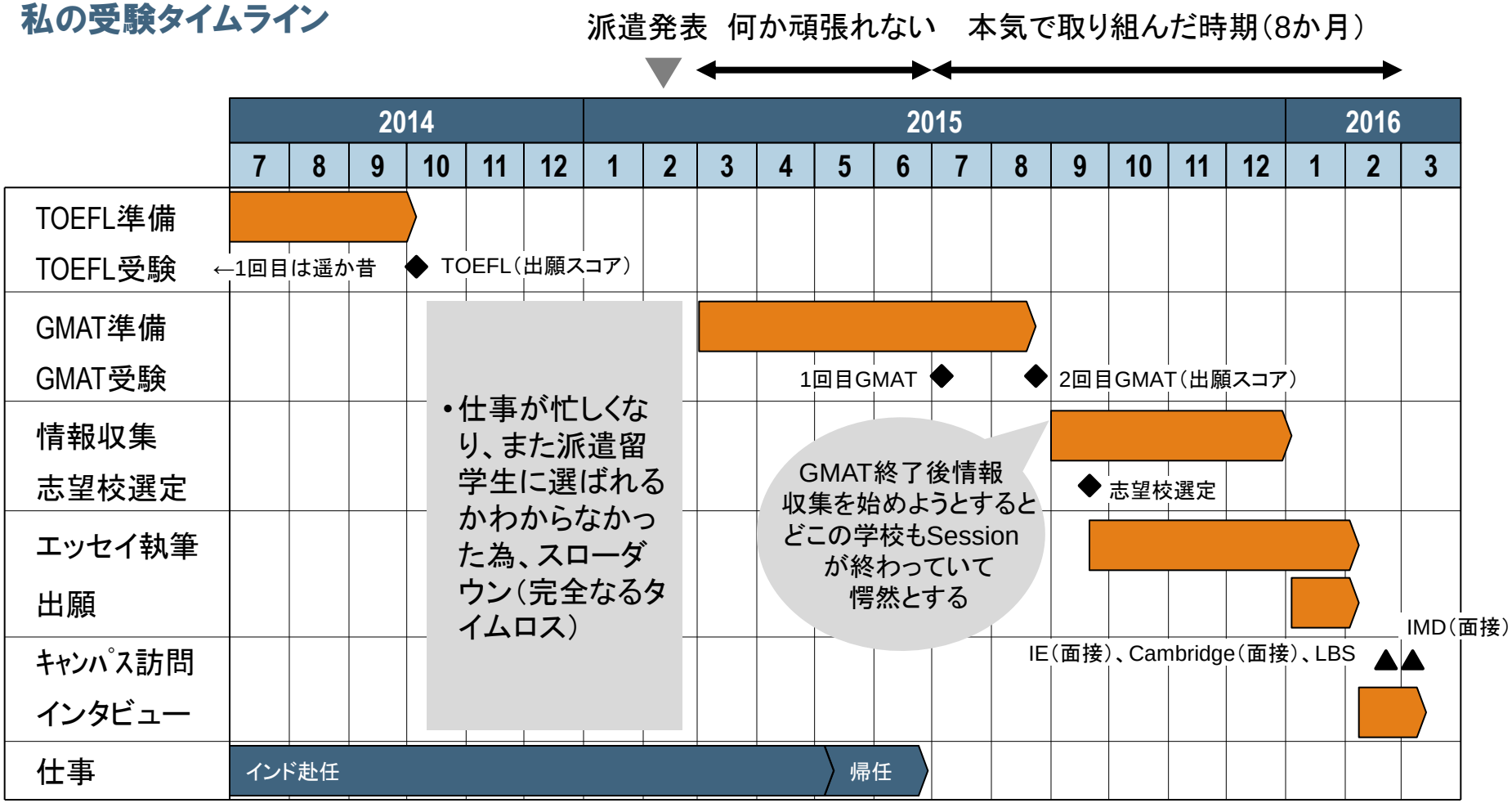
準備の大変さイメージ

	TOEFL/IELTS	GMAT	志望校選定	ESSAY・出願	INTERVIEW
概要	•TOEFLの受験（欧州であれば、IELTS等にて代用）	•GMATの準備及び受験	•情報収集を行い、最終的に出願する志望校を選定する	•ESSAY執筆、推薦状（依頼or執筆）、書類提出、Web出願	•Invitationが届いた学校の面接官と会い、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰを実施
目標	•出願可能な足切りラインを越えたレベルを目標とする	•出願目標校の平均値に近づける	•特徴を把握し、志望校を決める、出願プロセスを把握する	•決定した志望校全てに決めたRoundの期限までに出願	•質問に答える中で、Who you areを印象的にアピール
注意	•特に受験回数に制限はない	•年あたりの回数制限がある	•出したい学校/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの出願が終わってた、なんてことも	•ｽｺｱﾚﾎﾟｰﾄの送付ﾘｰﾄﾞﾀｲﾑ、推薦者との調整	•On-campus*、Alum対面、Skypeがある *訪問必要

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

直前にならないと動き始めない悪い癖。但し帰任前に準備はできないだろうと思い、TOEFLの受験を先行したことがせめてもの救い

私の受験タイムライン



© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

標準プロセスをベースに、自分なりのアジャストを加えるべき

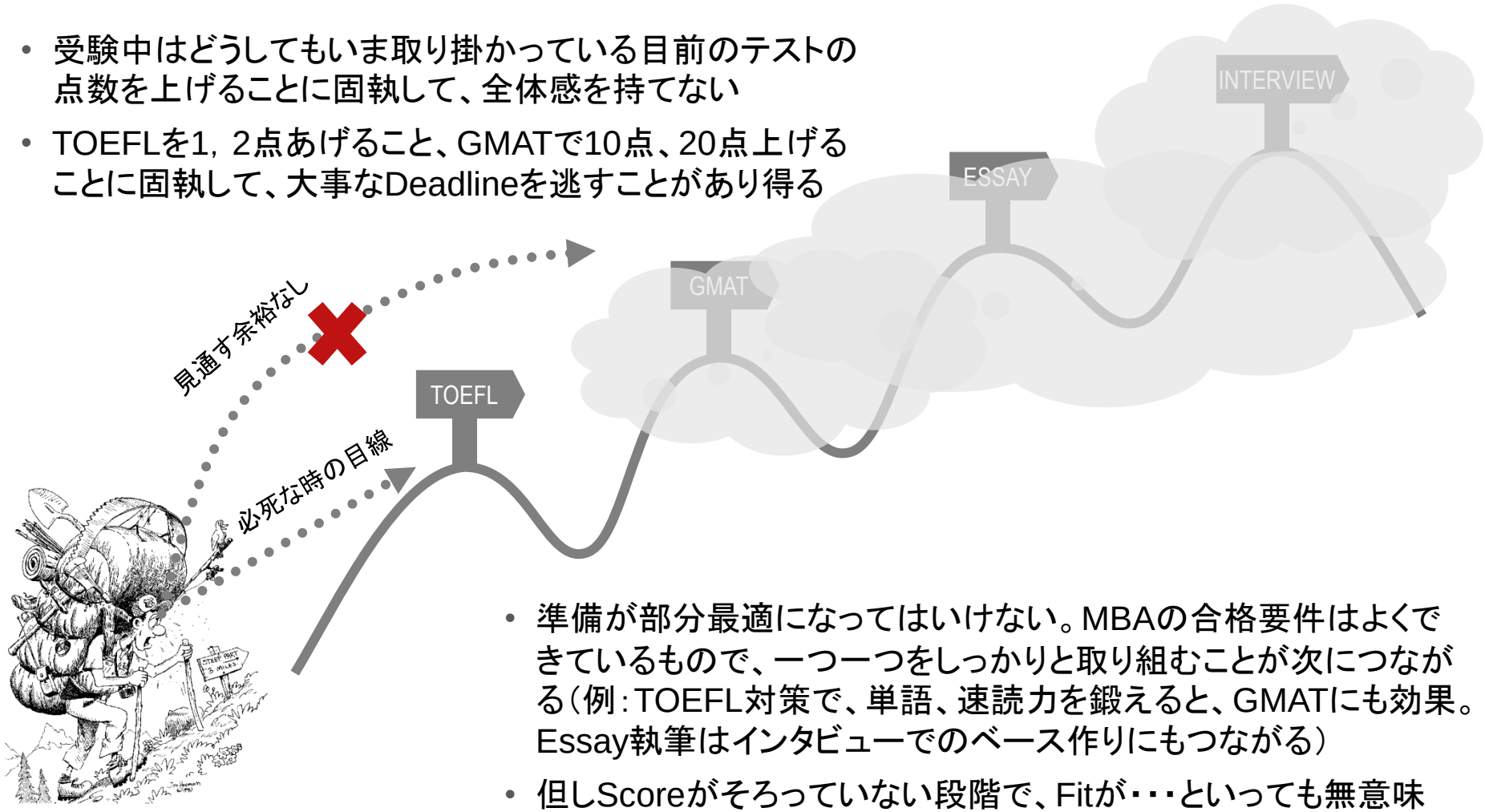
受験プロセスのスケジューリングの要諦

1. **TOEFLは派遣発表前に終わらせておくくらいのフロントローディングを検討する**
   - これまでのケースをみると多分TOEFLで躓くことにより、全体のスケジュールが厳しくなる人が多い
   - 仕事や個人の都合で、勉強ができない時期があるならば、その分フロントローディングする（転居、結婚、引っ越し、出産等・・・予見可能性がどれだけあるかは謎ですが。）
2. **自分のレベルに合わせて準備時間はアジャストする**
   - 英語ができるのであれば、TOEFLを飛ばして、GMATに時間をかけるだろうし、そうでなければ、スタート時期を早めることが必要
3. **その為には、まずは自分のレベルを早めに知ること**
   - 自分がどの程度時間が必要か気になる人はTOEFLを一度受けてみればいい。受けてみて低スコアが出ることで初めて焦る人も多い。自分は中々エンジンがかからないGMATがそのパターンだった。
4. **テスト受験日をペースメーカーにする**
   - TOEFLやGMATは予約を早めにし、何が何でもそこまでに必要な対策を行う
   - 1回で終わらせようとせずに、対策に対する効果測定をセットに行いながら受験する
5. **全体スケジュールとしては、Round2に全力でEssay執筆ができるように仕上げる**
   - その為には、志望校＋安全校のRound2の出願Deadlineくらいは早め早めに抑えておく。ちなみに大体1月位に集中する

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

目前の山が一番高い、と思いこまないこと

- 受験中はどうしてもいま取り掛かっている目前のテストの点数を上げることに固執して、全体感を持てない
- TOEFLを1，2点あげること、GMATで10点、20点上げることに固執して、大事なDeadlineを逃すことがあり得る



- 準備が部分最適になってはいけない。MBAの合格要件はよくできているもので、一つ一つをしっかりと取り組むことが次につながる（例：TOEFL対策で、単語、速読力を鍛えると、GMATにも効果。Essay執筆はインタビューでのベース作りにもつながる）
- 但しScoreがそろっていない段階で、Fitが・・・といっても無意味

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（色々議論があるが、経験に基づく私の持論）
“1st RoundでWarm-upをして2nd Roundで本命受験”はお勧めしない

理想論	現実
• スコアが万全にそろった • 1st Roundで練習を兼ねて安全校をいくつか受けてみよう • 手堅いところで合格が出たら、その後の対策にも弾みがつく	• 1st Roundで練習してみる • 初めてなので不合格も出るが合格も出る • 結構気合を入れて準備をしたので、2nd Roundに身が入らない。妙にこなれて手を抜いてしまう

- 受験プロセスにおいて、最大の敵は油断。
- 最後の最後まで「安心しないこと」が緊張感を保つ秘訣
- 油断せず、緊張感をいかに最後まで保つためには、1つのRoundに集中したほうがいい
- あと、1st roundで合格が出て、安全校としてキープしたい場合Depositを支払う必要が出る
- 但し、友人には1stで安全校合格、2ndで第一志望群のWharton合格、というケースもあるので個人次第。

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

GMATのスコアメークは効率的にこなして、頭を使うEssay/Interviewに早めに移りたい

- GMATは本質的に理解したりする意味はない。時間内で解けるようになることが必要なだけ。
- 結構集中力が必要な瞬発力勝負で短距離走のようなもの。これを何カ月も行うと疲弊する。
- 「3か月だけ集中する」との強い意志で取り組むこと（私は集中を持続できずロスタイムが発生）

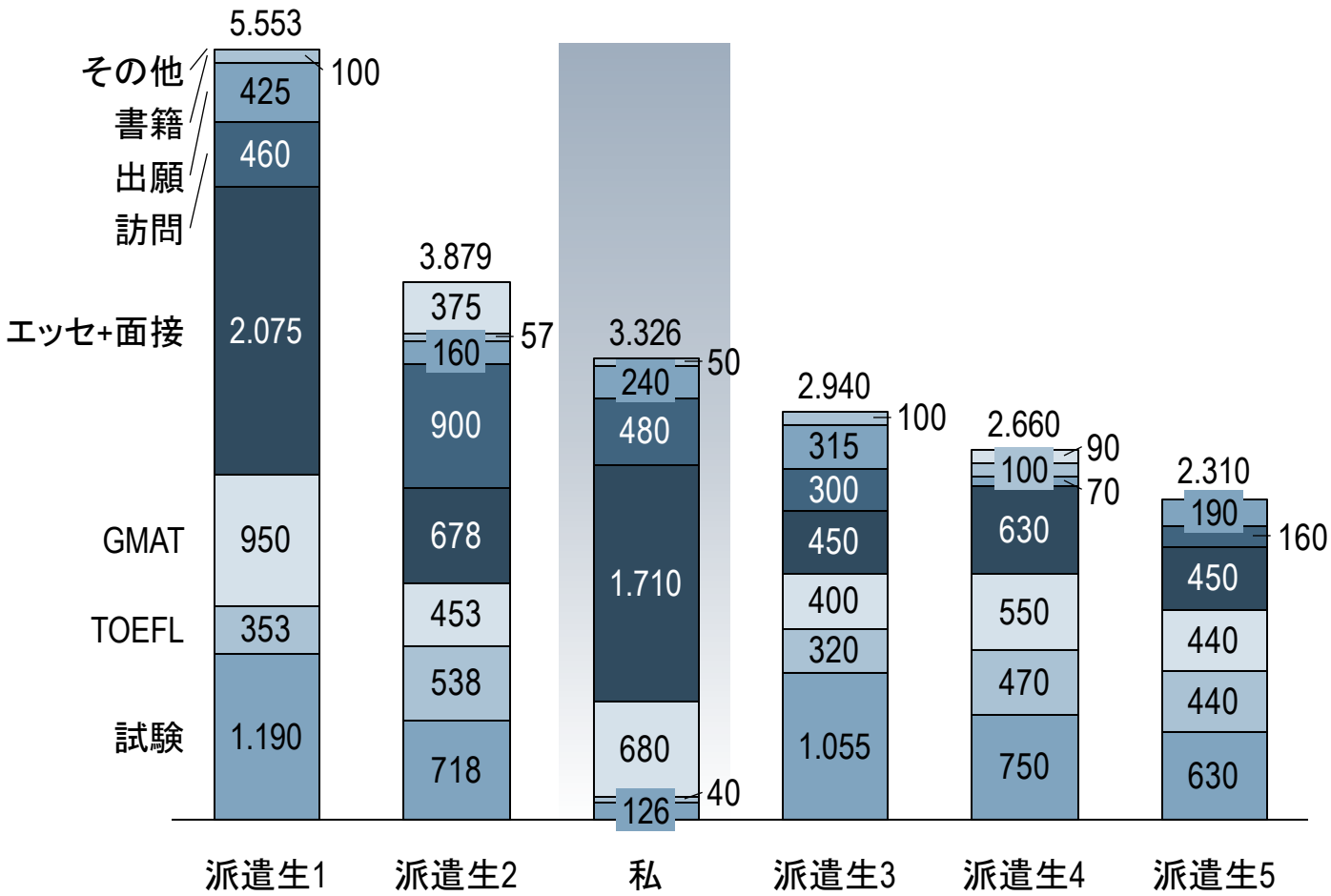
	GMATの対策	Essay/Interviewの対策
目標	•出願可能な足切りラインを越えたレベル（高いに越したことはないが目標は明確）	•ありとあらゆる形式の問題・質問が来る。 •どれだけやれば完璧か、基準はない
対策	•質の高い問題や予備校は限定的、やれることは少ない	•文章の推敲/反復練習をしながら、自分の考えをまとめる必要がある。
アプローチ	•テスト・問題形式に慣れ瞬発力を高める。高い集中力を保っておく必要があり、長く取り組むのはつらい	•Deadlineまでの時間まで時間をかけ、自分が納得行くまで、ありとあらゆる設問に備える
	3か月短期集中	時間をかけてゆっくりと

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

MBA対策には平均で300万円はかかる。
どこにお金をかけるべきかは、各人の状況に応じて見極めるべき

歴代アプリカントの費目別支出額

単位：千円



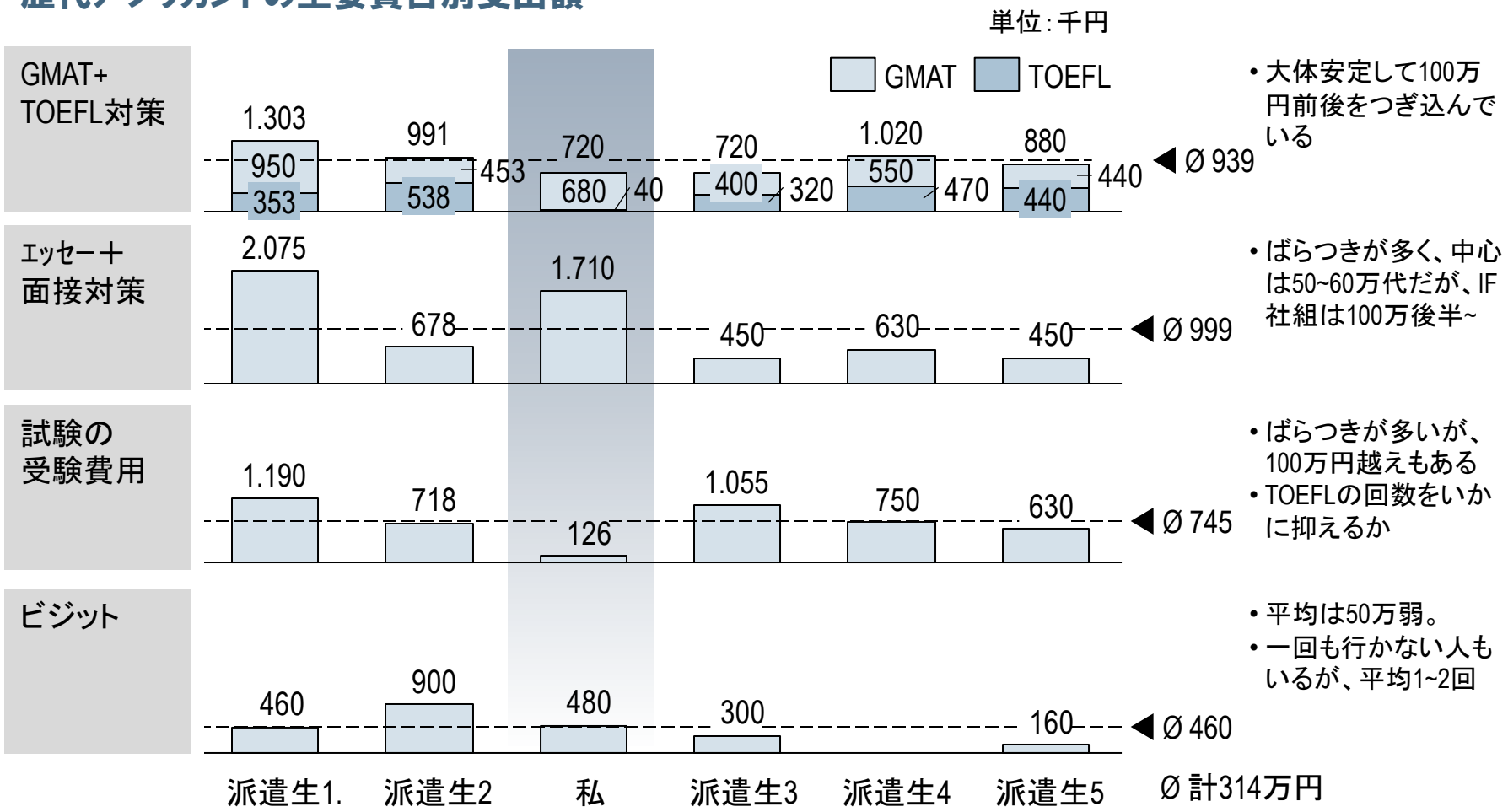
私の準備費用の詳細

試験	TOEFL	60
	GMAT(変更含む)	66
	Sub Total	126
TOEFL	参考書類	50
	Web Toefl	40
	Sub Total	90
GMAT	浜口塾	350
	YES (SC)	240
	Affinity	50
	マスアカ	20
	参考書類	20
	Sub Total	680
エッセー	Interface	1,350
	Sub Total	1,350
Interview	Interface	300
	Ed Group	40
	Ed Personal	20
	Sub Total	360
訪問	1回目	240
	2回目	240
	Sub Total	480
出願費用	出願フィー（7校）	210
	ｽｺｱﾚﾎﾟｰﾄ（約3校）	30
	Sub Total	240
Grand Total		3,326

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

平均では4費目合計で300万円。TOEFLをいかに抑えるか、エッセー+面接及びビジットに支出するかで全体費用に差が出る

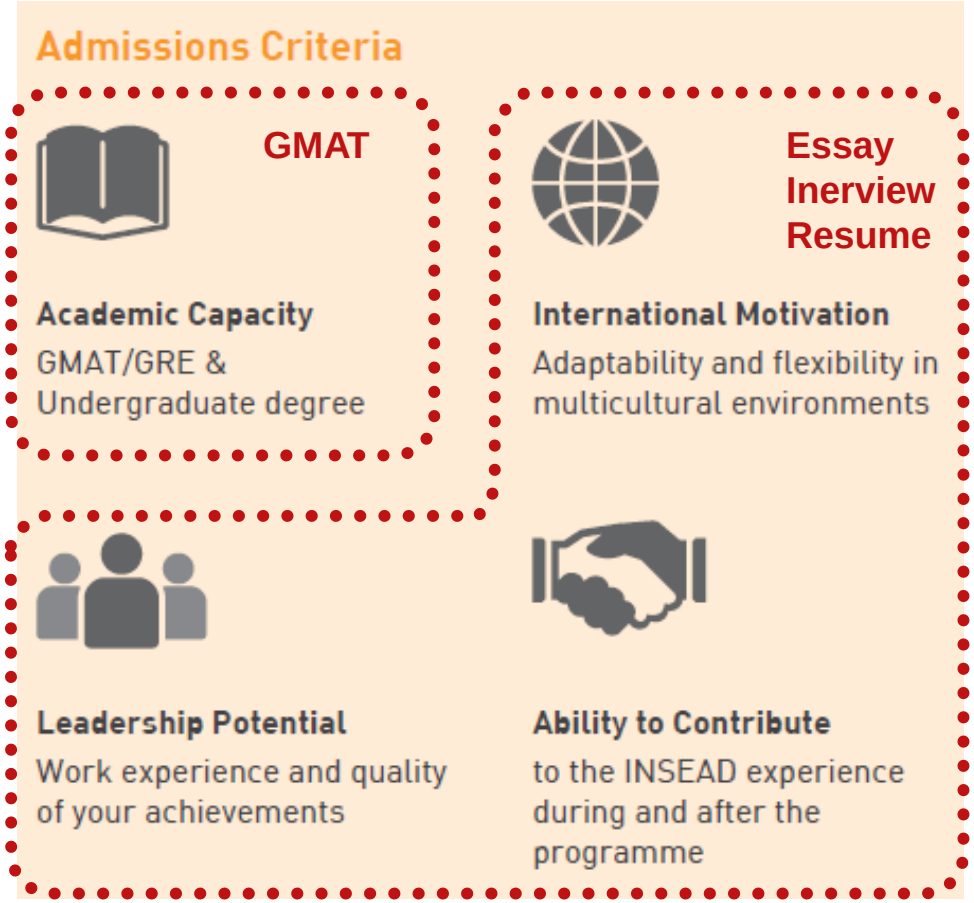
歴代アプリカントの主要費目別支出額



© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

最終的にはAdmissions Criteriaに沿って総合的な評価をされる。“Self-awareness”を高めて、効果的な“Messaging”を行うことが重要

典型的な評価基準（下記はINSEAD）



- 大体、どのMBAも先の基準で見られるし、GMATがAcademic Capacity、EssayやInterviewではそれ以外の3つを見られる
- 下記に照らして、自分は志望校にとってのCandidateとして十分魅力的か?と考えてみてほしい
- これのどの一つが欠けていても合格が遠のいてしまう。どこかが欠けているという人は今からでも補強できないかを考える
  - 例えば、Social ImpactへのInitiativeが足りないのなら、NPOを立ち上げる/入る等が可能
  - 仕事についても、何となくやり過ごすのではなく、日々の気づきを最大化できるように取組む
  - 私にとっての最大の武器は、インドでのチームの立ち上げ経験でした、候補生にはこういったチャンスを臆せず率先して掴んでほしい

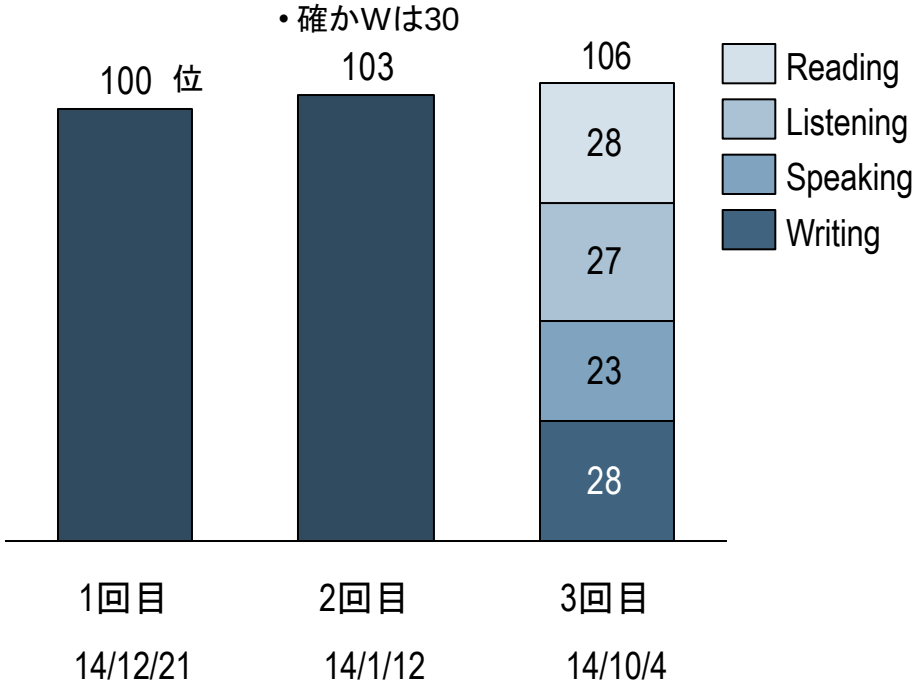
© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

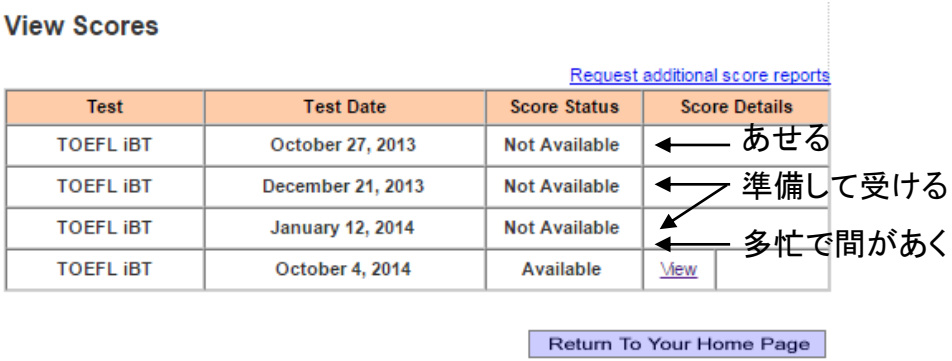
2. TOEFL・GMATの効率的スコアメイク

TOEFLについて準備して受けたのは3回。駐在時代は色々あり、中々継続して準備・試験をできなかった。

- TOEFL受験はインド駐在時代に元々準備をしていたが、色々あり延び延びになっていました
- 3回目のTOEFLを受ける日の夜からイランに出張に行く予定でしたが、前日夜父の訃報があり、翌日の深夜便で福岡に帰国。そんな中、帰国の途に就く午前中に受けたのが提出スコアでした

TOEFLスコア推移





View Scores

Request additional score reports

Test	Test Date	Score Status	Score Details
TOEFL iBT	October 27, 2013	Not Available	
TOEFL iBT	December 21, 2013	Not Available	
TOEFL iBT	January 12, 2014	Not Available	
TOEFL iBT	October 4, 2014	Available	View

Return To Your Home Page

- 昔のスコアはもう見れなくなってしまい、詳細は見られなくなってしまいました。誰も私のスコア推移には興味ないと思いますが。
- 1回目はノー準備で受けたら95とかになってしまい、焦って準備→その後何回か受けるが忙しくなり中断→10月に受けて最終提出スコア、という流れです
- 一度受けてみると自分の実力や、必要な準備が分かるのでいいと思います

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（ほぼ何をしていたか覚えていませんが）私なりのセクション別アプローチ

Section	理想	概要	対策
Reading	29~	ごく普通、かつひねりのない問題が多い	• 語彙と速読力を鍛えるとかいいながら自分は問題集とくくらいしかしなかった。割と語彙を強化しないでも日本人は点が取れてしまうが、本当はTOEFL段階から語彙・多読を鍛えた方がよい
Listening	28~	いろんな問題形式がある 短い瞬発力系と、講義形式、会話形式など	• 問題形式になれる • 長いものはメモを取る • どういう文脈で話が進んでいるか、分かるようになる • もし聞き取れない場合は、英語を聞いてなれる
Speaking	23*	いくつかの形式があるが、日本人が以外と苦手なのは、どうでもいい内容を自由に話す形式だと思う	• 型を作る（例えば、大体議論の内容をSummarize→自分のポジション→理由といった流れ）→その型はメモ用紙に書いておく（説明のセクション等の時間を使って） • 詰まった時に使える便利なフレーズを覚える • 雑談力も大事
Writing	28~	2つの問題がでる。Listening＋Writingと自由Writing。後者は賛成するか、反対するか、どちらか。	• 型を作る→その型は、制限時間のカウントが始まった段階でタイプし始める。フォーマットをタイプしながら考える • 便利だったり若干洗練されて見える言い回しを習得する。Writing Englishの要点を押さえる（Awkwardな表現を使わない） • 内容はそこまで重要ではなく、論理だった文章をそこそこの英語で書けるか。キーポイントを瞬時に思いついて書き始める。

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

*純ドメの場合。私もこれ

使った参考書類（ほぼ覚えていない）
※日本にいなかったので、予備校に通わず教材+通信で対策

- インドに駐在していたので、Amazonで買える本で対策、見つけた通信講座で対策していた
- 昔もToeflゼミナールの本を使って問題数が多かったので使っていたが、後で見るとAmazonでの評価は低い

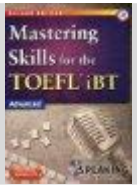
Section別の方式に慣れて解法確立 〉 Follow-up（弱点克服） 〉 数をこなしてなれる 〉 仕上げる

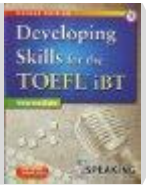
R

L

S

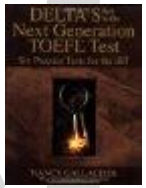
Web Toefl
（通信講座）

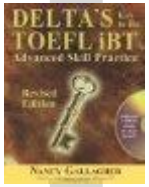




W

Web Toefl
（通信講座）
***添削があるので便利**

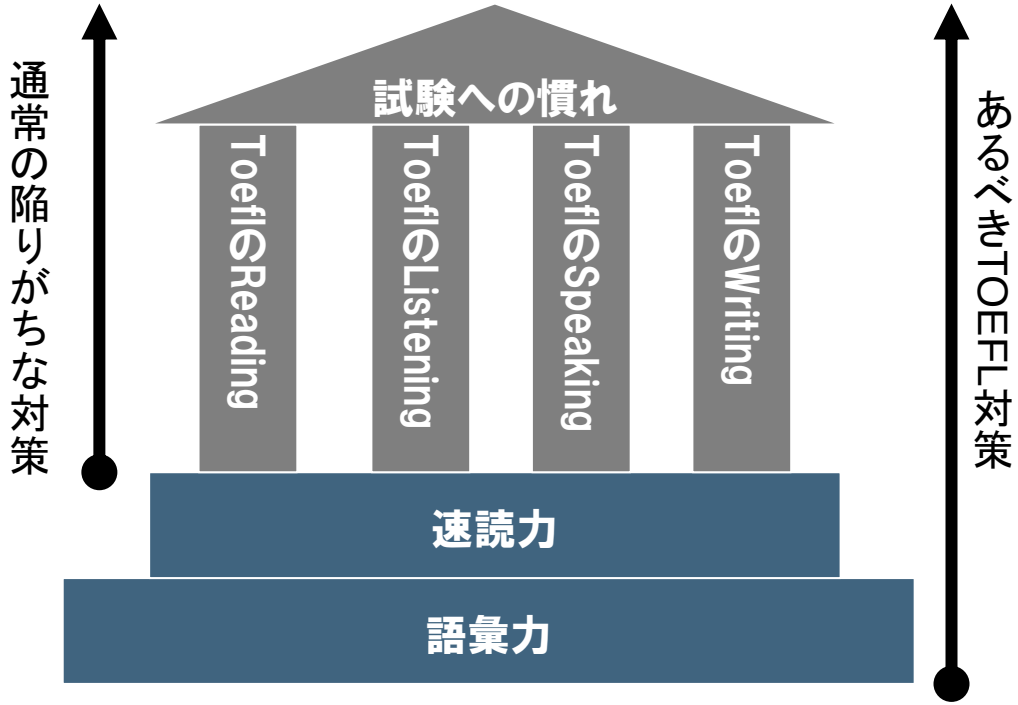




© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（もう一度やり直せるなら）ベーシックな単語力と速読力をTOEFL受験段階で付けておけばよかった、と思う

- TOEFLで注意が必要なのはSpeakingだが、短期間で上がるものでもないので、「残り時間」に応じた対策の身で割り切ること
- むしろ、遠回りに思えるが英語力全体の基礎となる、速読力・語彙力を上げておくと、その後のGMAT等で役に立ったのでは、と反省



早い段階で習慣化してしまえば苦にならない基礎力強化

速読力

- Penguin や Cambridge ReadersのLB3~5を週に1冊読む→だんだん早める

語彙力

- やっぱり繰り返しこれを読むことが重要
- 自分の単語帳を作ることも役立つかも

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

GMATの対策は、限られた期間で集中して取り組むべき

- GMATの対策のためにやれること（塾や教材）は限られている
- やみくもに、戦略なしに問題集を買って解きあさっても無意味
- ただ、先輩や人事に聞いても「GMATの準備にはそれぞれ相性がりますから・・・」といわれるので手探りで探すしかなくなってしまった→最終的には下記で進めることがいいと気づいた

GMAT対策の方針

解法の戦略を身につける	定着させる	タイムマネジメントの精度を上げる（仕上げる）	本番を受ける
じっくりと基礎的な問題を解く なぜその選択肢が正しいのか、という思考プロセスやルール、解法のパターンを身につける	若干の応用問題を使い左記の解法を身につける 解法に抜けがないのか、その場合はどうすればいいのか、を考える	問題をシャワーのように浴びて、左記の解法を繰り出すスピード、リズムを身につける 場合によってはどんな問題を捨てるのか、という戦略を決めておく	PREP等で、確実にはいスコア（或いは、目標スコア。無理に背伸びしてハイスコアをターゲットにするのは得策ではない）が出るタイミングで、受験する

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

結果的には2回受験だったが、最初からエンジンをかけていればもう少し短縮できたはず

- 2回目の本番は、他にもう何もやることがなくなっていたので、ほぼ背水の陣で臨んだ

自分の準備の進み方

だらだら準備	1回目受験	本気対策	仕上げ	2回目本番
•PREPを始めて受けて700点になった為、油断。しかし今考えたら結構途中で休憩を入れて解いたりしていて、時間が足りなさそうだったのでポーズしていたりした。	V:25位?	•初めて本気になる。しかし、だらだら準備していたころに濱口塾は一回やっていたので、本腰が入らなった。Yesに通い始める。Yesの解説は分かりやすかった。やっぱり家でやるより通学するといやでも集中できるのでよかった。	•これまで手をつけていなかった濱口塾の実践問題や、OGを解き漁る。 •Affinity等に通い、濱口塾と同じ問題が出てきて意味がなかったと痛感。 •PREPでも720等が出て、もうやることがないか、と思い本番受験を覚悟	V:31
	Q:48位?			Q:50
	AWA:不明			AWA:5.5
	IR:不明			IR:7
	Total:550位			Total:680

まずい！　初めてエンジンがかかる

出願スコア

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

教材・塾の強み・弱みや特性を把握し、適切な順番で使いこなす

・あまり手広くやっていないので、教材・塾の比較感はあまりない

問題の重複があるので、濱口塾をやりこむと
PREPで点数が上ぶれして油断するので注意

	概念・戦略	テクニック論	演習
SC	○濱口塾（単元別） ○Yes SC*（16回位でOK）	※文法コースを受講していないと、仲間はずれ感あり。自分は受けていなかった	○濱口塾演習 ○OG及び Verbal Section ○PREP（追加購入）
RC	○濱口塾（単元別）		○濱口塾演習 ○OG及び Verbal Section ○PREP（追加購入）
CR	○濱口塾（単元別） △Affinity CR	×Affinity演習 ※問題が易しかったり、分類が不十分。踏み込みが甘く、濱口塾には及ばないか・・・	○濱口塾演習 ○OG及び Verbal Section ○PREP（追加購入）
Math	○マスアカテキスト		○マスアカの演習

概念・戦略	テクニック論	演習
○ 実戦でも利用できる	○ 実戦でも利用できる	○ 実戦と同等・豊富
△ 踏み込み不十分	△ 踏み込み不十分	△ やや易しい/陳腐化している
× 役に立たない	× 役に立たない	× 圧倒的に少ない/古い

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

私はGMATは高得点をヒットできなかったのであくまで参考に・・・

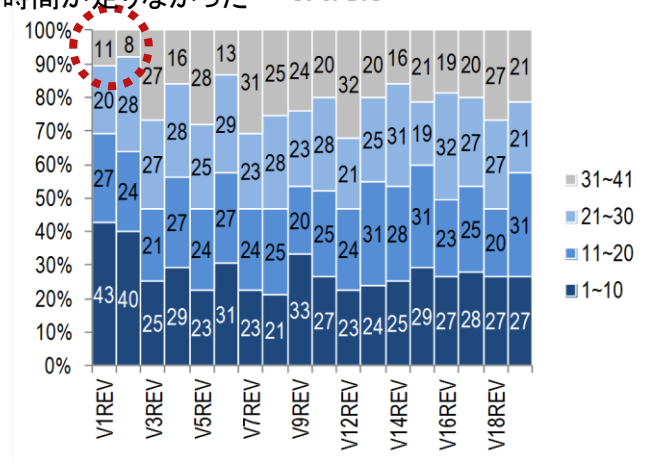
Sectionx	理想	概要	対策
Math	50~	ごく普通の算数問題。 問題形式が2種類あるのでそれになれること	•おそらく日本人は50は問題ないはず。マスアカの本を1周し、PREPの模試を受け、分からなかった問題の形式をマスアカの教材で復習。単語を覚えることも重要
SC	35~	文法の問題。 GMAT特有の視点があり、受験英語の常識は通用しない	•GMAT特有のルールをたたき込むよりほかはない。 •濱口塾とYESを受講し、できるだけ対応力と即応力を高める
CR		論理問題。Assumption, Weaken, Strengthen等8種類くらいある（濱口塾の分類）	•相性がありそう。理系の人には有利な気がする。最後まで苦手だったが、自分が得意なタイプを見つけて他を切る勇気も必要。濱口塾の解説が一番分かりやすい
RC		文章及び問題のひねりがTOEFLより難解。TOEFL 3800の高レベルな単語が出るので単語力が重要と痛感	•速読力が大事。最初と最後だけ読んで問題に取り組むという人もいるが、個人的にはパッセージは一回読んで解き始めた方がいいと思う。その為にも1回でパッセージを読み取れる読解力はベースで必要
AWA	28~	TOEFLのWの2匁に近い形式のライティングの問題。かなりシンプル	•濱口塾のテンプレートを覚えて、自分なりにカスタマイズする。TOEFLでベースの作文力があれば1、2回程度テンプレートになれる為に練習するだけでOKなはず。
IR	?	センター試験の図表問題みたいなもの	•最近追加されたらしく、MBA受験ではあまり参考にされないらしい。低得点でなければOK（らしい）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

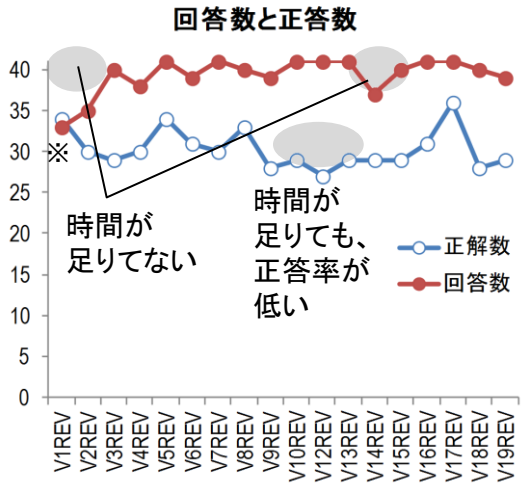
仕上げる段階は、タイムマネジメントや回答のリズムを体に叩き込むことを重視する

- 浜口塾の実践問題集を狂ったように解き漁った。あまりに戦略なく在るだけ解いたので、殆どの流通している問題に触れてしまい、それ以後やることがなくなってしまった
- 同塾の実践問題集を解くときには、10問ずつ、どのくらいの時間配分をかけて解いたのか、正答数・誤答数の推移、各セクション別の誤答数を記録した（下記のような形式で）
  - より厳密にしたいのであれば、CRの種類なども見ていい。それを見ることで、苦手なタイプのCRは捨てる、という選択もできたはず）をエクセルで記録し、自身の傾向分析をした

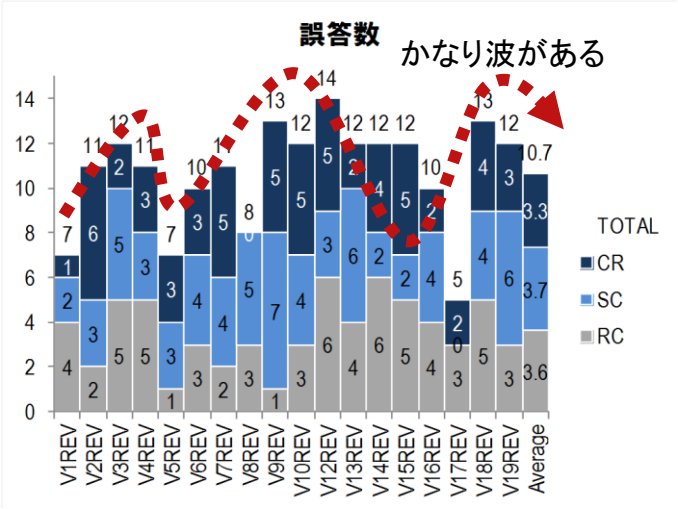
最後の10問は
時間が足りなかった



スコアリングで一番大事な最初の10問に何分を書けるのがベストか?自分の最適値を探す



時間が足りず、全部解けなくても、正答数が下がるわけではない（捨ててもいい）



全てを通じて各セクション、まんべんなく間違えている

※初回で正答数と回答数が逆転しているのは、時間が過ぎた後にも解いたため

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

仕事が忙しい合間にも、ペースを守って対策を行えるよう、自分なりのスケジュールを組む

- ステップ1：次の受験日を決める（会場は早々と埋まるので、早めに予約してしまう）
- ステップ2：そこまでに実施したい対策本・受験をリストアップする
- ステップ3：受験してスコアが出なかったときに何をするかも考えておく→教材群のランク付けを行っておく
- ステップ4：実行可能なペースを決め、それぞれの日に何をするのかをアサインしていく
- ステップ5：時間を捻出して、そのスケジュールをフォローしながら実行する
  - 例）朝：出社前にカフェでRC3問、昼休憩にスタバに抜け出しCRを10問、帰ってSC30問（Yesの予習）、、、等と時間は意外と捻出できる

本番までのスケジュール管理イメージ

逆算してスケジュール・ペースを策定

			Day1	Day2	Day3	Day4	Day5	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10	Day11	Day12	Day13	Day14	Day15
			8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16
	問題数	数/日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
YES	3	1			1												
濱口SC	18	1	2	1		2	2	1	1	2	1		1		1	2	2
濱口SC演習テスト	18	1									1	1	1			1	
濱口CR	16	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1		1		1	1
OG-CR																	
OG-RC																	
PREP-RC	51	15															
OG-SC																	
PREP-SC	55	20															
濱口Math	22	1															
Paper test	9	1	1														
PREP																	

受験日

- （考えたくないが）バックアップの計画も想定する
- 本番の受験日が最後の受験とならなかったときに、何をするのか?も用意しておく

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

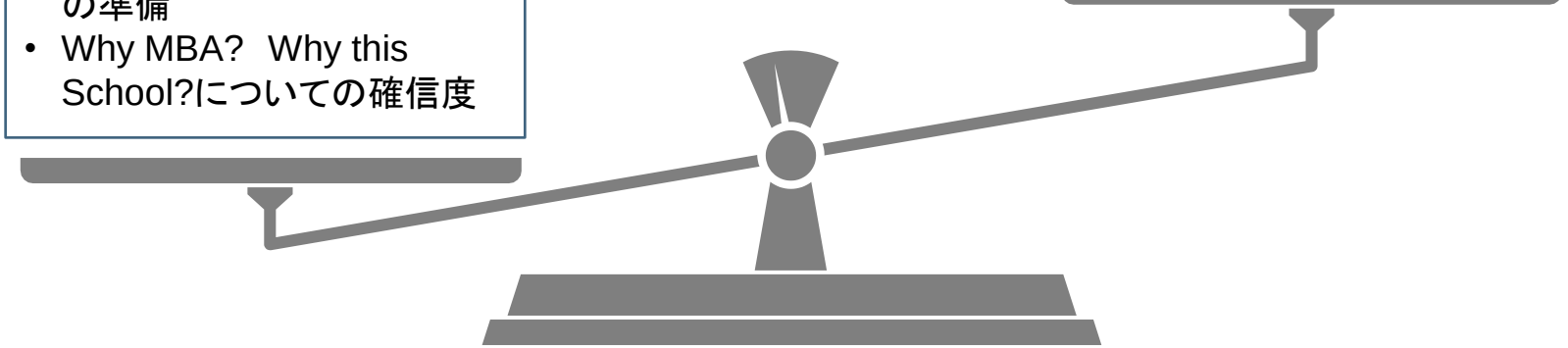
「あと少しスコアが欲しい」時は早めに見切りをつけて、次に進んだ方が得策か?（最低の点をとれていることが前提）

- 少なくとも、欧州のビジネススクールであれば下記の構図が当てはまるはず
- ある先輩の金言「680位になったなら、早めに見切りをつけて、Essay準備取り掛かった方がいい」→今考えればこのアドバイスが一番重要だった
- TOEFLは3回、GMATは2回で見切りをつけて、早めに切り上げた

あと10点を挙げる為に必要な時間を使ってできること

- 情報収集とターゲット校選定
- Essayの中身、Interviewへの準備
- Why MBA?　Why this School?についての確信度

- TOEFLの1点
- GMATの10点の差



© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

余談：会場について

TOEFL

- 私はインド駐在時代にTOEFL受験をしたので、日本のTOEFL会場については分からない
- インドのグルガオン及びノイダでTOEFLを受けた時には、いずれも受験時間1時間前から長蛇の列ができ、インドにおける受験熱の高まりを感じた
- また、グルガオンの会場では停電があって、UPSが作動してパソコンだけ付いている状況で受験させられたり、ノイダの会場では汚いエアコンもない会場で受験させられたりした。会場の観点でも、競争率の観点でも、つくづく日本のMBA受験生は恵まれていると思う
- Speakingのセクションのチュートリアル時に、パソコンに向かって”Sir, Good Afternoon…”といって話し始めるインド人受験生がいて噴いた

GMAT

- 名古屋と東京で受けたが、名古屋はアットホーム感があり、ゆるい一方でオペレーションに難がある。もし本番で使用する場合は、事前に何回か使っておくことをお勧めする（バイトが慣れていない）
- 帝国ホテル：発受験で1回受けたがその時低スコアだった為、個人的に帝国ホテルにいい思い出はない
  - 帝国ホテルではMIT Sloanの説明会もあった。「7年の就業経験で受験することはお勧めしない。Stanfordにも似たようなプログラムがあり、最低就業経験年数が8年でとてもいいプログラムなので、そちらを受けることをお勧めする。」といわれ、MITの受験は断念。等、あまり運がよくない

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

3. 目的をもった情報収集・志望校選定

GMATもひと段落して情報収集、さて何をする?

- 会社とMBAの対策の状況を話し合う会議の中で、「GMATも見え始めたので、そろそろ情報収集を始めてください」といわれる
- 情報収集とは何をするんですか? と聞くと、どうやらいろんな方法があるらしい
  - 「要は、ホームページを読むんですよ」 →ページ数多い、どこ読むんだろう
  - 「ブローシャーを取り寄せた方がいいですよ」 →届くまで時間かかる・・・
  - 「アプリケーションのプロセスや、各種必要条件についても調べてください」 →どこに書いているんだろ
  - 「Alumni訪問をしてみてもいいですね」 →何のために?
  - 「Admissionに顔を売ってみてはどうでしょう」 →どうやって?
  - 「現学生とSkypeする・・・」 →何を話すんだろ?

    等、様々なことを言われるが、どうも腑に落ちない。

- TOEFLやGMATの予備校はあるが、体系的な情報収集の仕方は誰も教えてくれなかった（後に、Interfaceでカウンセラーに会うまで本当によく分からなかった）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

目的をもって情報収集できるかどうかで、その後の勝率が変わる

情報収集が必要ないくつかのステップ

次章参照

	志望度の確定・志望校選定	スケジューリング	エッセーの準備	各校のインタビュー対策
Why? 何の為?	• 自分のスコア・各種制約・目的にあった志望校のポートフォリオを策定する	• 効果的なエッセーの取組み順番、出願のスケジューリングを決める	• 各校にフィットし、Why this Schoolを裏付ける力強いエッセーを執筆する	• 各学校に対する志望度やフィット、貢献を印象的にアピールできるようになる
What? 何を?	• 校風・プログラムの特色、強み等 • スコア要件等	• エッセーの問題、出願時期 • インタビュー時期・形式（On-campus?）	• カリキュラム・名物授業、Extra Curricular 活動・クラス形式、教授陣・・・	• カリキュラム・名物授業、Extra Curricular 活動・クラス形式、教授陣・・・
How? 方法	• Web頁（Admission Processを中心に） • Information Session出席	• Web頁（Admission Processを中心に） • IDを作成し、問題をとりあえずリストアップ	• Web頁（Program Finder等隅々） • 在校生ブログ • Alumni訪問 • 在校生Skype	• Campus Visit（体感する、意気込みを見せる） • Alumni訪問 • 過去の傾向（塾）
When?	• 夏前（※Info Session時期は要チェック）	• 8～9月中?（2nd出願を想定した場合）	• エッセー執筆時期（10~12月）	• エッセー出しきった後（1月以降）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

情報収集の最初の目的は自分なりのターゲットポートフォリオを作ること

志望校ポートフォリオ策定のステップ

Step1 Long Listing

- 制約条件をリストアップして、受験できる学校のロングリストを策定する
- 制約条件とは、例えば、勤続年数、Degreeのタイプ（EMBAはだめ、MScはだめ、等）社費であれば期間等もネックになる。自分の中でどうしても譲れないもの（例：絶対米国）とかであれば、制約条件として設定

Step2 Portfolio

- 上記でリストアップした学校を母集団として、例：客観的ランク×難易度でマトリックスを作り、分類する
- 基本的には、Dream校（第1志望）、Core校（合格確率と志望度が高い）、Safe校（志望度は若干落ちるが合格確率は高い）に分ける

Step3 Priority

- それに対し、自分の行きたい学校の視点でいくつかの学校を取りだす。基準はひとそれぞれで、起業、Tech, Gen. Management、Financeとかに強いとか、ブランドがいいとか、人それぞれです。都市等もあるかもしれません。
- 重要なのは後でぶれないように、自分の優先順位（軸）をはっきりつけておくこと

Step4 Timing

- 出願時期を確認し、無理なく無駄なく、Feasibleな出願先の学校の組み合わせを確定させる

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

まず、検討のユニバースを定義する
＝自分が出願しうる（検討の範囲に入る）学校をリストアップする

実際に作成した検討フレーム

Step 1: ロングリスト

Top 20 Schools listed in FT Rankings

	MBA	Duration
1	Harvard	• 2 years
2	LBS	• 15~21 M
3	Wharton	• 2 years
4	Stanford	• 2 years
5	INSEAD	• 10 M
6	Columbia	• 15M / 2 year
7	Iese	• 2 years
8	MIT Sloan	• 2 years
9	Chicago	• 2 years
10	Haas (UCB)	• 2 years
11	Ceibs	• 1 year / 2 year
12	IE	• 1 year
13	Cambridge	• 1 year
14	HKUST	• 1 year
15	Kellog	• 1 year
16	HEC	• 12 / 16 M
17	Yale	• 2 years
18	NYC Stern	• 2 years
19	Esade	• 19 M
20	IMD	• 11 M

Top Schools listed in IF Rankings

	MBA	Duration
++	Ross, Michigan	• 2 years
++	Tuck, Dartmouth	• 2 years
++	UCLA Anderson	• 2 years
++	Fuqua, Duke	• 2 years
++	Johnson, Cornell	• 12 M
++	Darden, Virginia	• 2 years
++	Katz, Pitssburg	• 12 M
++	Emory	• 12 M
++	IBEAR Marshall	• 12 M
++	Saïd, Oxford	• 12 M

Major EMBAs mentioned during counseling

	EMBA	Duration
1	Harvard	• N/A
2	LBS	• 12M
3	Wharton	• 24M
4	Stanford	• N/A (MSX)
5	INSEAD	• -
6	Columbia	• -
7	Iese	• N/A
8	MIT Sloan	• 12M
9	Chicago	• 21 M
10	Haas (UCB)	• 19 M

自分の場合は、

- MBAであること
- 1年制若しくは短いプログラムであること（社費の運用は毎年異なっており、今年は厳格に1年しか行けない可能性大。早めに確認すること）
- 勤務経験年数（特にSloanとかを受験する場合）

が制約条件であった

- 2年制の場合は選択肢が広くなるので、何か加えた方がよさそう
- 場合によっては、Toeflの足切り点があるので、それも検討
- 但し、Cambridgeのように運用が厳格でない学校もある

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

客観的な難易度の情報(例:GMATスコア、FTのランク)等の基礎データを整備する

実際に作成した検討フレーム

Step 1: ロングリスト

Analysis of possible 19 options

#	School	Type	Duration	FT (2015)	Ave GMAT	Work Exp.	Likability
1	Columbia	MBA	15 M	#6	716	• —	• ++++
2	Kellog	MBA	1 year	#14	724	• —	• ++
3	Johnson, Cornell	MBA	1 year	#28	700	• —	• ++
4	Katz, Pitssburg	MBA	1 year	#97	625	• —	• +
5	Emory	MBA	1 year	#59	678	• —	• +
6	IBEAR Marshall	MBA	1 year	#58	630	• —	• +
7	MIT Sloan	EMBA	1 year	#8	713	• 10 Years	• +++
8	Haas (UCB)	EMBA	19 M	#10	715	• 7-20 years	• +++
9	INSEAD	MBA	10 M	#4	701	• —	• +++
10	CEIBS	MBA	1 year	#11	689	• —	• +
11	IE	MBA	1 year	#12	672	• —	• ++
12	Cambridge	MBA	1 year	#13	680	• —	• +++
13	HKUST	MBA	1 year	#14	671	• —	• +
14	HEC	MBA	1 year	#16	685	• —	• ++
15	IMD	MBA	11 M	#20	670	• —	• ++
16	LBS	MBA	15~21 M	#2	700	• —	• ++++
17	LBS	EMBA	12 M	#2	700	• Ave. 18 years	• ++++
18	ESADE	MBA	19 M	#19	670	• —	• ++
19	Oxford	MBA	1 year	#22	692	• —	• ++

* Points mentioned with red colors need to be checked with school admission / company HR

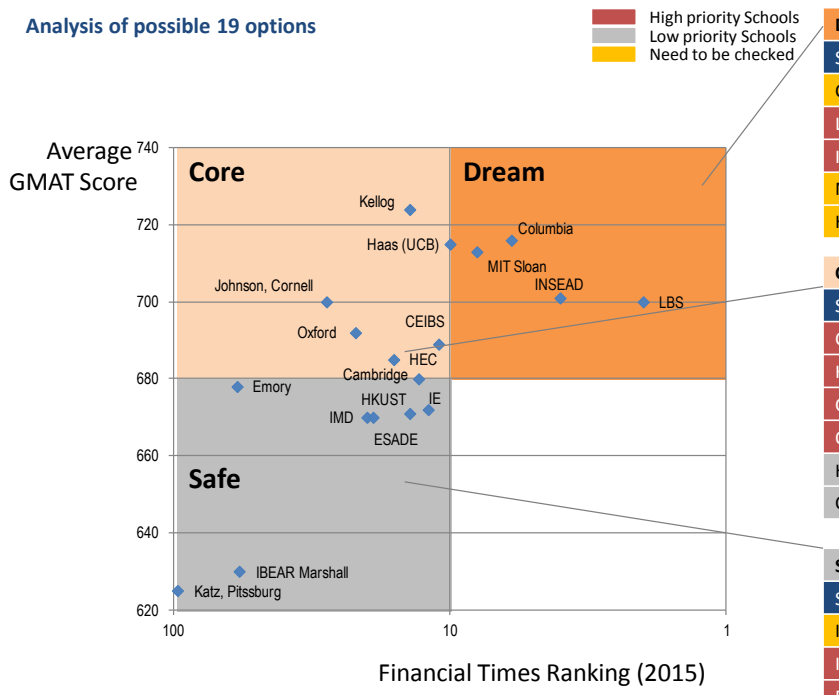
- いちいちホームページに行ったら面倒なので、
  - Degree Type
  - 期間
  - FTのランク
  - AverageのGmat
  - Work Experienceの要件
  - 自分の志望度
  - 等を一元的にまとめて管理した
- 今では便利で、上記のような情報を集めたポータルがあるので、それらを活用してもよい

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

合格確率をベースに3カテゴリーに分類し、特に自分の志望度を勘案した上で自分なりのターゲット校のポートフォリオを作る

実際に作成した検討フレーム

Step 2: ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ+志望度



Dream

School	Likability
Columbia**	• ++++
LBS	• ++++
INSEAD	• +++
MIT Sloan	• +++ (?)
Haas	• +++

Core

School	Likability
Cambridge	• +++
Kellog	• ++
Cornell	• ++
Oxford	• ++
HEC	• ++
CEIBS	• +

Safe

School	Likability
IMD	• ++
IE	• ++
ESADE	• ++
Emory	• +
HKUST	• +
IBEAR	• +
Katz	• +

** Admission for Columbia J term (15 month program) starting January 2017 is planned to start in June 2016

- Dream, Core, Safeに分類する。泣いてもわめいてもGMATのスコアは変わらないので客観的に分類する
- その上で、各マスのどこを自分のポートフォリオに組み入れるのかは、好みで決める
  - 意外と、ここでつけた自分の行きたい度合いが、後あと重要になったりもする
  - 自分も最終的に、進学先に迷った際にはこの時に一番行きたいと思っていた学校に立ち戻って決めた
  - また、自分の好みから自分が重視している軸が浮かびあがる→Essayにも反映

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

個人的には社費であれば5校～8校程度受けるのが妥当と思う（私費学生は行きたくない学校は受験不要なので話は別）

- 3校だと心ぼそい。特に社費だとどこかには受からないといけない。本命校3校を受けているうちにどこにもうからなくなり始めてから3rd Roundに取り組むのは心が落ち着かない
  - 最初は5校くらいで終わらせようと思っていたが、カウンセラーに発破をかけられ、8校出した
  - 今思えば、8校は不要だったかもしれないが、やることはすべてやったという納得感＋面接を始めた早い段階で合格が続出したので心理的な安心感を得られた
- 結局、3rd Roundまでもつれる状況は絶対に避けるべきと考えると、2nd Roundで出しつくしてしまえばいい。
  - うまくいかないことを想定して、貴重な選択肢を、合格確率が格段に下がる3rd Round用のBackupにまわすのは得策ではない
  - もちろん、GMATスコアが出ないので、という理由であれば別問題。但し、その場合も3rdの時期に受けるのは、HECやIMD等、そもそも出願スタートが遅い学校にするべき
- 個人的には「受かっても行くだろうか、、、」と思う学校もあった
  - 本当に行ってもいいと思った学校はDream+Core校。安全校は本当に受かるだろうと思う学校を入れるべき
  - 但し、FTのﾗﾝｷﾝｸﾞ＝合格確率でもないので、そのあたりは注意すべきである
- Dream校でも安全校でも全て全力で取り組むこと
  - どこにもうからなかったときに行くところがない状況と、少なくとも行くところがある状況は雲泥の差がある

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

出願時期を確認して、効率的なエッセー執筆を行えるか最終確認。余裕があればInterviewのInvitation時期も見ておくとよい

実際に作成した検討フレーム

Step 4: タイミング検討

Summary of deadlines of short-listed schools

School	Deadlines	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16	11/23	11/30	12/7	12/14	12/21	12/28	1/4	1/11	1/18	1/25	2/1	2/8	2/15	2/22	2/29	3/7	3/14	3/21	3/28	4/4	4/11	4/18	4/25
LBS	2016/1/5													★																
	2016/2/25																				★									
	2016/4/21																												★	
INSEAD 2016 Sep	2016/1/13														★															
	2016/2/24																				★									
Cambridge	2015/10/23		★																											
	2016/1/8													★																
	2016/3/4																					★								
Kellog	2016/1/6													★																
	2016/4/6																										★			
Cornell	2015/11/17						★																							
	2016/1/15														★															
	2016/3/17																							★						
Oxford	2016/1/8													★																
	2016/3/18																							★						
	2016/5/6																													
	2016/6/10																													
IMD	2016/2/1																★													
IE	2015/11/30							★																						
ESADE	2015/12/1								★																					
	2016/1/19															★														
	2016/2/16																			★										
	2016/3/15																							★						
Columbia	2016/1/6													★																
	2016/4/13																											★		
MIT Slaon Fellow	2015/11/9				★																									
	2016/1/18														★															
Haas (UCB)	2015/11/17						★																							
	2016/1/5													★																
	2016/2/10																		★											

- 選定した学校の出願時期を確かめる
- 場合によっては、出願時期によってプログラムの種類・期間が限定されるケースがあるので、注意する（例：ColumbiaのJ Term等）
- たいていの学校は1月に2ndのDeadlineが設定されており、ここにめがけて出願するのが得策
- Feasibilityを確認するとともに、どの組み合わせで行くのか、どういう順番で取り組むのかを検討する上での参考とする

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

どのような情報ソースを活用するのか?

- たいていの情報はWeb Siteにあることに注意する
  - Essay執筆の時の、志望度・学校の特色に関するネタ出しも、殆どの学校はWebページで調達可能
  - むやみにAdmissionにメールを送ったり、忙しいAlumniや学生に質問して、邪魔しないこと
- 少なくとも本命校、Dream校は、Website、Brochureまで隅々まで読むことをお勧めする
- そして、それらの学校には3名以上のAlumni訪問をすることを、自分に課した
  - もちろん、それぞれの学校のAlumniの方からいろんなTakeawayがあった

- （当たり前だが）Information Session出席や、Alumni訪問をした際には必ずメモを取り、それらのメモをファイリングしておくこと
  - 後あと、Essay執筆や面接対策の際に戻って予お見返すことができるようにしておくことが重要

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

情報収集活動には、他にも気付きにくい隠れた目的もある

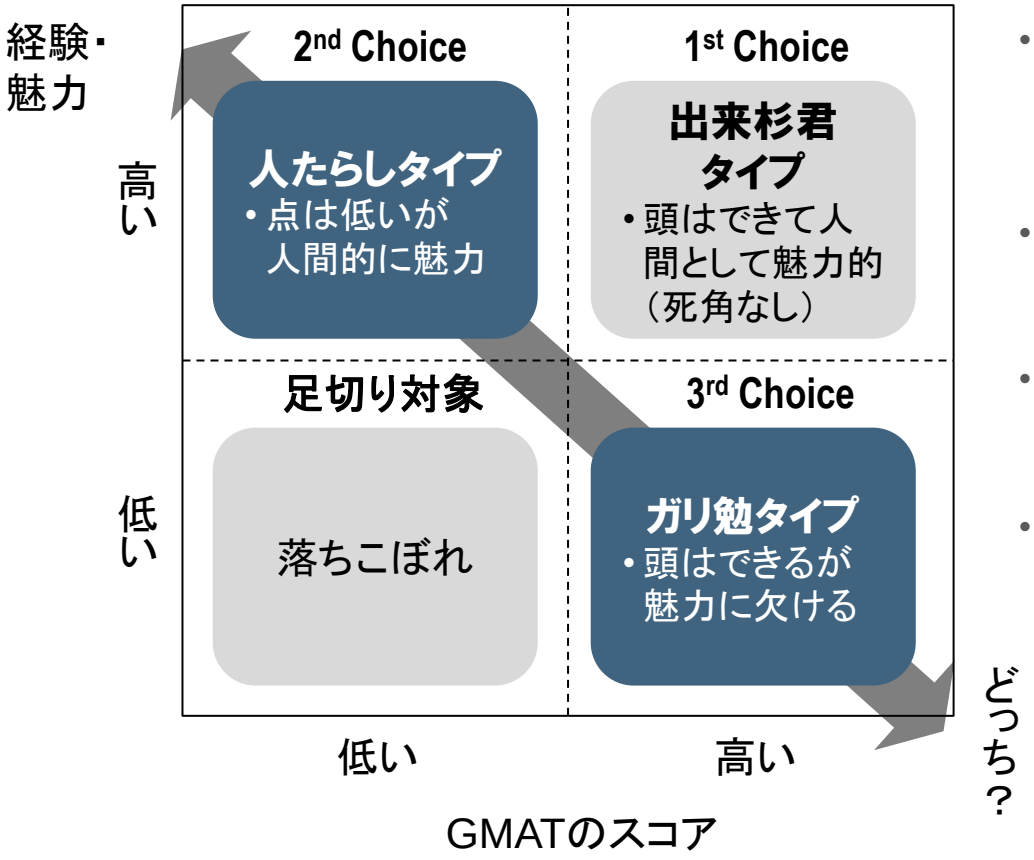
- 例えば、Information Sessionに出席して、Admissionチームに顔・名前を売ることができる
  - LBS、INSEADのInformation Sessionでは必ず最前列に座り、特に聞きたいことはなかったが質問した（外すこともあるが、ここで発言もできなくて授業で発言できるか、という思いで発言。誰も「そんな変な質問する人は不合格です」、とは言わない）。今考えると質問は練った方がいいかも。
- ネットワークを広げる→今後一緒に戦う友達に会う。MBAは情報戦。そして狭いコミュニティ
  - 夏ころにInformation Session等であった人とは、今後も同じ戦いを共にするライバルであり戦友
  - 例）LBSであったインド人学生とは、INSEADの合格者パーティーで再会
  - 例）江戸義塾のインタビュー対策であって一緒に、週末の昼下がりのカフェで大声で面接の練習をいあった双〇の受験生（結局Whartonに合格）とは、合格者パーティーで再会
  - 例）Cambridgeで同じ日に受けた学生のほとんどは、INSEADの合格者パーティーで再会、もう一人はLBSのVisitでも再会・・・・等
  - どれだけ、こうした仲間と情報交換できるか。悩んだ時に相談したりGive & Takeできるか
- 場合によっては、どれだけ出願先の学校について本気なのか？　この候補生はどれだけネットワークをできるのか?というIndicatorにもなる
  - 実際に、LBS、HEC、IMD（うろ覚え）のアプリケーションフォームには、どれだけ現学生、アドミッションのチームのメンバー、Alumniとあったかを答える欄がある
  - そういうフォームがあるから、ではなく、社会人として名刺を交換することはお作法なので心配する必要はないかもしれない。本当にまじめに志望しているのであれば、ネットワークも自然と広がるはずだし、意識しないでも自然と行うべきだと思う

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

4. ESSAY及び APPLICATIONの指針

スコアが高いがCandidateとして魅力がない人、スコアが若干低いが魅力が高いCandidate、どっちを取る？

ESSAY執筆に取り組む順番



- 左記は、あくまで私の仮説かつ、そこまでスコアが高くない自分でも合格したという経験からの気づき（また、そうであってほしい、という希望的観測かも）
- 左記の傾向は、米系のスクールでは当てはまらない可能性があるので要注意（かつ学校では、足切りのラインが違う）
- また、GMATのスコアの見方がフレキシブルといっても、あまりに低いと書類追加は遠のくので、最低限までは取ることを心掛ける
- 伝えたいことはEssay+Interviewこそ、あなたの魅力を伝える機会であること
  - GMATのスコアは無機質で、その人がどんな人であるかは伝えてくれない
  - Essayとinterviewは、雄弁にあなたの魅力を伝える

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

どのような師を得るかが、エッセー・面接対策では最重要

- 私はインド駐在時代からInterfaceのTestimonialsを読んでから、Devalier先生にどうしてもアドバイスをお願いしたいと思い、社費合格が出る前からInterfaceに訪問していた
- 結果的に幸いにもDevalier先生にアドバイスをもらえるようになり（Interfaceでは、直前までどのカウンセラーが担当するかはわからない）、書類段階では全ての学校に合格した（面接も）
- InterfaceのDevalier先生にお願いするとざっと130万円かかることになり、この金額については賛否ある。但し、**難関校への合格を量産している腕はおそらく日本一であるといって間違いない**
- 私は、エッセー及びインタビュー知策は、MBA受験にとって本質的な必要コストであるとおもっている。**上を目指す人ほど、エッセー・インタビュー対策へのリソース投下は惜しんでいない**
  - 帰国子女、英語完璧、途上国でのボランティアの経験多数、米系投資銀行部門での華々しい実績、はいスコアのGMAT・・・といった人も肩を並べて、インタビュー対策のクラスを受けていた
  - 一方で、TOEFLを数十回受験したため、お金を節約してEssay＋Interviewカウンセラーは使いませんでした、というCandidateはいまだあったことがない
  - MBA受験には様々お金がかかるが、トップ校にいけるか志望度が低い学校に行けるかで経験やその後のキャリア形成も大きく変わる
- もちろん相性はあるし、全員がDevalier先生に受けられるわけではないと思うので、事前に様々なクラスを受けるなどして、顔は売っておいた方がいい
  - Interfaceには米国ベースのカウンセラーも在籍しており、その先生にお願いしたCandidateは、時差を利用してカウンセリングを受けられ、仕事の両立もやりやすかったとのこと
  - Devalier先生は厳しいといわれるが、実は他の先生の方が厳しかったりするらしい。私は感度が低いのか、厳しいことを言われているとは微塵も感じなかった。うまくそういう人とやっていくこともその後の面接やMBAの経験には生きると思う

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Essayで確実に印象を残す為には、単純に英語で文章を書けるだけでは越えられない壁がある

	方針	大体の候補生のレベル	壁	確実に印象に残る候補生
Candidacy	• 学業、実績、ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ、総合的な魅力から、ふさわしいCandidateと印象付ける	• 学業の実績 • これまでの実績 • 目標への有用度	→	• クラスメートへの貢献 • 課外活動でのLeadership • についても具体的に言及
Attractiveness	• 学業やビジネスだけでなく、人間的にも魅力的だと理解させる	• これまで行ってきた課外活動等の経験　等	→	• 知的奥ゆかしさ（本、歴史…）、Ethical Valueに関する考え、ビジネスの理解
Understanding of the school & Fit	• 事前に各校の特色を理解し、各校のｶﾙﾁｬｰにFitした候補生であると印象付ける	• カルチャーの理解 • プログラムの理解 • を理解している	→	• Faculty、Teaching Method、等に関する理解、各校の好みに合わせた書きぶり調整
Sophisticated English	• こなれた英語でAdmissionの審査官をひきつける完成されたエッセーを書けるか	• 日本人的な英語表現の氾濫(ほんの一例：Prof. such as, Therefore…)	→	• イディオム・英語 • 明快だが奥深い文章 • ドラマチックな脚色
Consistency & Balance	• エッセー・推薦状・CVが様々なCandidateの側面を重複せず一貫性を保って表現できている	• とにかく豊富な実績と実例をエッセーに詰め込む • 推薦状でも繰り返し	→	• エッセーバランス、推薦状、CVとの一貫性の確認…

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

英語に自信がある人でも、英語表現については注意が必要

- 文法的に間違いなくロジカルな英語のエッセーを書くことと、訴えかけるエッセーを書くことは違う
- 私はTOEFLのWritingセクションでは満点が出たことがあるが、英語表現は「稚拙で、退屈で、洗練されていない」ということがよくわかった

安っぽい英語	好印象な英語
• Therefore, However等の接続詞を多用した堅苦しく退屈な文章	• 流れが分かる文章展開をすればそのような接続詞は不要
• I would like to… • I tried to…	• 決心が弱く感じる • 結局できなかったのか?と聞こえる
• Prof. • Mr.	• Prof.とは略さない • Mr.とピリオドを打つのは米式
• I achieved A, leveraging B. I also achieved C, leveraging D…気がつくと、AchieveとLeverageがエッセーの中に10個登場する…	• 巧みに使い分ける、Rephraseすることで、知的な文章を書く
⋮	⋮

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Essayの問題のタイプは数パターンしかない

- ターゲットポートフォリオの各学校の出題内容を分類すると、いくつかのパターンに分類できた（その時の分類は振り返ってみると、その時の分類はあまり正しくなかったかもしれないが）
- その上で、どのように取組むのが一番効率的かを考えた

各校の問題をまずリストアップした

Essay Questions for Dream Schools

School	Questions
LBS	What are your post-MBA plans and how will your past experience and the London Business School programme contribute? (500 words)
	What specific areas of London Business School life are you most excited about getting involved in and where will you add value? (300 words)
	Is there any other information you believe the Admissions Committee should know about you and your application to London Business School? (this question is optional) (300 words)
MIT Sloan	**Required - Statement of Objectives** What are your immediate (1 - 5 years) and ultimate (>15 years) professional objectives for attending the program? Specifically, please indicate your objectives and how they fit with the purposes of the MIT Sloan Fellows Program. How would your unique background contribute to the diversity of the Sloan Fellows community? (500 words or less, limited to one page)
	Required - Essay 2 Tell us about the most challenging experience you have had in trying to collaborate with a person or group who share the same ideas. What did you learn from this experience and did it change the way you dealt with similar afterwards? (500 words or less, limited to one page)
INSEAD	Give a candid description of yourself (who are you as a person), stressing the personal characteristics you feel to strengths and weaknesses and the main factors which have influenced your personal development, giving exam necessary (approximately 500 words). *
	Describe the achievement of which you are most proud and explain why. In addition, describe a situation where you failed. How did these experiences impact your relationships with others? Comment on what you learned(approximately 400 words). *
	Tell us about an experience where you were significantly impacted by cultural diversity, in a positive or negative way(approximately 300 words). *
	Describe all types of extra-professional activities in which you have been or are still involved for a significant amount of time (clubs, sports, music, arts, politics, etc). How are you enriched by these activities? (approximately 300 words) *
	Is there anything else that was not covered in your application that you would like to share with the Admissions Committee? (approximately 300 words)

類型化

どのようなタイプがあるのかをまとめて、分類した結果

Summary of essays of schools for immediate application

School	1. Career	2. Backg-round	3. Leader-ship	4. Achieve-ment	5. Failure	6. Challenge / Risks	7. About school	8. Others
Cronell	Short and long term goals	Book of Your Life Story (Unique Style)						
ESADE	Improvemen t during career	background, values and non work-activities		(Proud achievement)		(Biggest Challenge)		(Historical Figures)
	Immediate & ultimate professional objectives					Challenge in teamwork		
L	Post MBA Plan & MBA Experience						What excites you? Value to add	
INSEAD		who are you as a person	extra-professional activities	Most proud achievement		cultural diversity experience		
Cambridge	Past growth and future growth after Kellog				Learning from most spectacular failure			
Kellog	Past growth and future growth after Kellog		Recent experience as a leader					

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

大体大きく分けて、下記のような分類の周辺に出題はまとまる

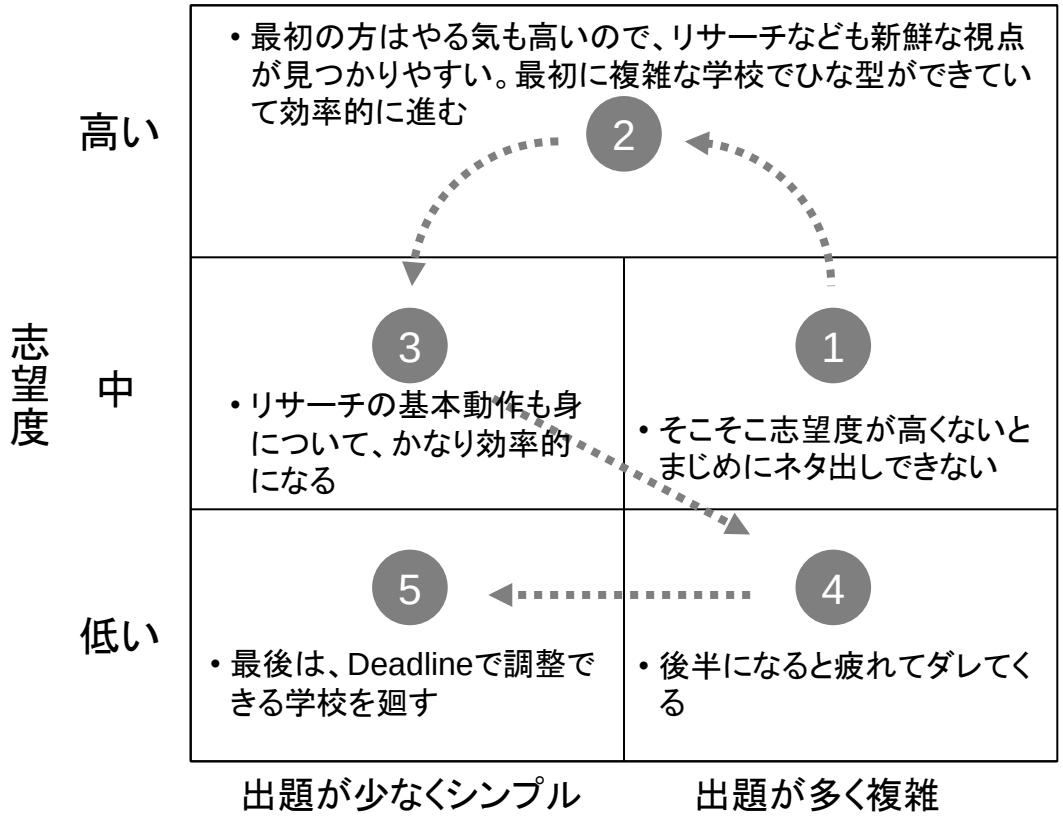
- もちろん、Essayだけでなく、推薦状も下記のような分野から出題される
- ひねった出題方式もあるが、要はAdmissionは何を聞きたいのか?という点を外さないこと

	Basicなもの	ひねったもの
Goal statement系	Why MBA? Why now?	your laudatio (tribute) * IMD特有の問題
	Short/ Long-term Career Goal	
Behavioral系	Achievement / Career Progression	Key Strengths (推薦状)
	Learning from a failure	Weakness (推薦状)
	Leadership / Teamwork	Ethical value / dillema
		Dinnerしたい相手 （HEC）
	International Experience	Diversity Experience
Contribution	Extra Curricular Activities	

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

お勧めは、1番最初に取り掛かるのは2番目の志望度かつ問題数が多い学校にする。その後は1校ずつ集中して取り組む

ESSAY執筆に取り組む順番



- 今考えると、元々意識していたわけではないが、自然と左のような順番で取り組んでいたし、それでよかったような気がする。
- ちなみに、自分の場合は、INSEAD→Stanford→LBS→Cambridge→IE→ESADE→HEC→IMD
- あとは、Deadlineの遅い早いで調整する。自分の場合は、Deadlineの遅いHEC、IMDは後回しにした
- 1校ずつ終わらせることが重要。他の学校とまぜこぜにして取組まないこと

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

外せないコンセプトはSelf-Awareness, Collaboration, Diversity…どのEssayを執筆するに当たっても、下記をいつも踏まえる

	内容・方針	頭の体操
Self Awareness	• 自分を知っていること。MBAのエッセー・面接ではひたすら、自分を知っているかどうか、ということが問われる	• あなたを一言で表すとどんな人ですか?強みや弱み、大事にしていることは何ですか? それを表すストーリーは?
Teamwork / Leadership Style	• 一口にリーダーシップといっても全部自分でするわけではない。自分なりのリーダーシップの形を話せるようにする	• あなたのリーダーシップスタイルを一言で言うと? あなたにとってチームワークとは? それを表すストーリーは?
Diversity	• 自分はDiversityの重要性を理解している、ということをいかに説得力を以て伝えられるか?	• これまでにDiversityを感じた場面、それによって戸惑ったり、役に立った場面は?
Contribution	• 「日本人として、日本の企業の・・・をクラスに共有する」はダメ。日本人であることに価値はない。	• あなたは、〇〇Schoolに入って、クラスメートにどのような貢献ができますか? 具体的な計画は?
Holistic Picture of you (Who you are?)	• 勉強・仕事以外の全体的な人物像。 • Essayでの、どんな貢献をするか?という設問はExtra Curricularの設問	• 勉強・仕事以外でどんな経験をしてきましたか? 〇〇校でどんなイニシアチブを取りますか?

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Essay執筆の際には、まず自分の過去を振り返り、ストーリーをリストアップすることを出発点とする

効果的なエッセイ執筆のステップ

Step1 Who you are?

- 自分の半生を振り返る。素直に成功したこと、失敗したこと、そこから何を学んだか、MBA卒業後、ビジネスパーソンとして何を大事にしていきたいか、を考える
- 振り返るのは大学まで。高校は古すぎる。そこまでさかのぼらないとネタがない人間なのかと思われる　※特殊なストーリーがあれば別

Step2 Why MBA?

- まず、Why MBA?を固める（本当にMBAを取得して何がしたいのかを考える）
- その上で上記でリストアップしたものがどの設問にフィットするのかを検討する（Admission Teamが聞きたいことを考えてマッチするか考える）
- ブランクスペースがあった際にはフィットするストーリーをブレーンストームする

Step3 Essay執筆

- 各設問の完成度を高める。その際には効果的なMessagingができているかを確認する。Detailに入ることなく、伝えたいことが伝わるか。STARフォーミュラ等の構成を踏まえた執筆を心掛ける。1題につきストーリーは3つ程度盛り込むことが望ましい
- ドラマチックな表現、効果的なイディオム、洗練された英語になっているか確認する

Step4 全体バランス

- 各学校への出願文書（Essay、Recommendation、CV）全般を確認し、一貫性が取れており重複がないか確認し、必要に応じて調整する
- Goal Statement系の設問では、各校にむけたカスタマイズを行う

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

エッセイ執筆時の様々な注意点

- **ファイルをアップロードする形式の学校についての注意**
  - 特に、WordやPDFでアップロードする形式のものについては注意する（ StanfordやCambridgeなど）
  - フォント、余白、インデント形式が全部同じだと怪しい→いい感じにばらす。ファイルのPropertyも確認
- **絶対に使える構成があるので頭に入れておいて損はない**

  例： Goal Statementのエッセーの構成例：
  - これまでのCareer Progression
  - Career Goalと、そこにいたったTrigger Story
  - Why MBA ? Why now?
  - Why this school?
    - Curriculum / Faculty Strength (Combination of Theories & Practice)
    - Extra Curricular Activities = Leadership Development Opportunity
    - Environment (e.g. Leaders' Talk series, Entre environment, Industrial Cluster, Location, Teaching Method e.g. small class size, classmate profile…)
- **一貫性の確認は怠らないこと**
  - どこかで〇〇について強いといっているのに、どこかでそれが欠点だといってしまっており、矛盾がある（例：私はチームワークを大事にする・・・といっておきながら、弱点のエッセーや推薦状の改善点で、自分の意見をおしつけがち、人の話を聞かない、といっている、等）
- **欠点はCriticalではないものにする**
  - 私の欠点は、「いつも成功のためには手段を選ばず、人を裏切ったりずるをしてしまうことです」、と書くと、おそらくどこも合格しない。欠点は改善の余地があるものにする

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（参考）Recommendationの準備について

- Essay + Recommendationの内容は、まとめてデザインした方が一貫性があるので、殆どの上位校合格者は自分で執筆することが多いと思う
- 特に、推薦者自ら執筆していただく場合には時間的な負荷をかけることに加え、記述内容をコントロールすることができないことがネック
  - ほぼどこの学校の推薦状にも、Candidateの様々な点について評価を1~5で評価するセクションがある
  - 推薦者が1~5の良い悪いを逆に認識してしまい、全ての点において最悪、という推薦をうけ、見事不合格となった（理由はそれだけではないかもしれないが）Candidateもいる
- 基本的な流れとしては：
  - 推薦者にお願いをする→ブレインストーミングをするのも〇
  - Application Formに推薦者のDetailsを入力する
  - 入力用・アップロード用のリンクが送られてくるので、そのメールを転送してもらう
    ※ファイルを送付するタイプの学校については、文面をドラフトして送ってもらう
  - その後（場合によっては合格後や書類通貨後にVerificationのメールがある学校もある）のメールはすべて逐一転送してもらう
- IP等を確認されていないか?等が気になる場合は、会社のLAN、自宅、スタバ、ホテル等のIPを使い分ける（但し、そこまでチェックされているということは聞いたことがないし、自分も結局LANで全部アップロードしていた）
- 一部の学校・プログラムではCorporate Sponsoredの学生にはCEOからの推薦状が必要となる学校もあるので注意する（Stanford MSx等）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

5. INTERVIEW & CAMPUS VISITの戦略

ここまできたら、あとはInterviewを成功させるのみ。私はInterviewの準備に対して、受験を通じて一番労力をかけた

- こまできちんと対応ができていれば、インタビューに呼ばれるはず。Interviewに呼ばれたら、それはMBA受験において最後のプロセスである
- Interviewこそ最重要かつ殆どの日本人受験生にとって最も準備をすべきプロセスだと思っている
  - 明確な足切りや平均点といった指標があるTOEFL・GMATに比べ、Interviewは自分との戦いとなる
- インタビューでは、下記の立脚点に立って、雄弁に自分が魅力的かつ、ふさわしいCandidateであるかを語る必要がある
  - Resume→そこに書かれてあることは、基本的には面接官は知ってあるはずだが、WTYM*の質問は印象的に、さらりと行うことが必要。更に、インタビューの中ではそれを超えた内容を繰り出していく必要がある
  - Essay→基本的には繰り返しは避ける。いくつかの学校の面接では、明確にApplication Fromに書いてあることは繰り返さないでくれ、といわれる。矛盾はしてはいけない
  - Recommendation→そこに書いてあることは知らないことになっているが、当然知らないことになっているので、Interviewの中では言及してもいい。ただし、丸被りは避ける
  - 情報収集→Why This School?を伝える上で、ベースとなる特色や具体的固有名詞を取りいれる
  - 気の聞いた受け答えや知的な表現・言い回しを入れることで、洗練された雰囲気を演出する
  - TOEFL+GMATのスコア→低くて、何かそれについて聞かれれば、釈明もさらっと行う（自分はなかった）
- これらの対策は、帰国子女の百戦錬磨のCandidateも、繰り返し練習している
  - Interfaceでは誰の目から見ても完璧！というようなCandidateが机を並べて演習を受けていた（その後、HBS入学）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

*WTYM: Walk Through Your Resume

スペイン組は早々にSkype/訪問で面接を受けた。IEは勢いがあった

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
ESADE	• 面接官：Admission Manager • 形式：Skype • 長さ：45分	• 実施：2/10 • 合否連絡：2/12 • Offer：2/19	• 初めての面接だったので緊張していたが、1度日本であったAdmissionの方と終始和やかな雰囲気で行われた	• Walk through your resume • AIESECでの経験、訪問した中国の北京と上海の違いの印象は? →MadridとBarcelonaの違いを説明 • カルチャーショックを受けた経験 • なぜESADEにひかれているのか?
IE	• 面接官：Admission Manager • 形式：対面（Campus訪問） • 長さ：50分位	• 実施：2/22 • Offer：2/26	• IEにはNRIを辞めて私費でいった同期がいたことと場所柄ひかれた • 学校自体はRankingも上がり勢いがあった • 日本のAdmissionの飯野さんがよくしてくれ、面接時にCampusツアー・在校生とのランチ・日本人学生との座談会をセットしてくれた • 面接は独特でスピードが速く、難易度は少し高め。ただ、準備できていたので難なくクリア	• Brief walk through about myself, professional, academic, and extrawork • Recent failure and learning • If you exemplify yourself to an animal, what is the most similar animal? Why? • If you could have dinner with any one in the world dead or alive, who would you like to have dinner? • What does inflation mean? • What is the desirable inflation rate? • What is Federal reserve? • Who is leading FRB? • What kind of news will I see on the front page of newspaper today? Name three news

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

原則全員キャンパス訪問が必要。アットホームで志望度が上がる

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
Cambridge Judge Business School	• 面接官：Faculty Member • 形式：対面（Campus Visit） • 長さ：面接は30分 • 24日：昼：日本人材学生との情報交換 夜：Dinner • 25日：Admission Team, Dean等からの説明会、Career Report、Career相談会、面接、昼：ランチ及びCambridgeのCity Tour	• 実施：2/24~25 • Offer：3/4	• IEの受験の後、イギリスにわたり受験。Cambridgeの街は歴史があり、とても好きな雰囲気だった • 同日に他に5人くらいの日本人と受験したが、他のメンバーとはINSEADの合格者パーティーで会う等その後もつながりが強かった • Candidateを全員キャンパスに呼ぶことからもわかるように、全体的にCandidateにCambridgeの街やProgrammeの雰囲気を知ってもらおうという気遣い、アットホームな感じを受け、とても好感が持て、志望度が上がったVisitだった	• 面接官はProgramme DirectorのJane Davis教授。Operationsの先生だった。ちなみに、食堂でスタンバイしている間に配られるパンフレットにInterviewerの名前が書いてある為、Candidateは皆直前にBackgroundをインターネットで調べてとっさに対策をしていた • Why MBA now and Why Cambridge? • How would you approach to improve an efficiency of day-to-day operations in a company • Whether operations drive people or people drive operations? • Whether operational efficiency can be a competitive differentiator? • 上記はｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞで自動車業界と仕事をしていたので、実例を挙げながら答えることができ、かなり成功したインタビューだった。雰囲気は修士和やかでConversational

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

HECはプレゼンがあることと2回面接があることが特徴

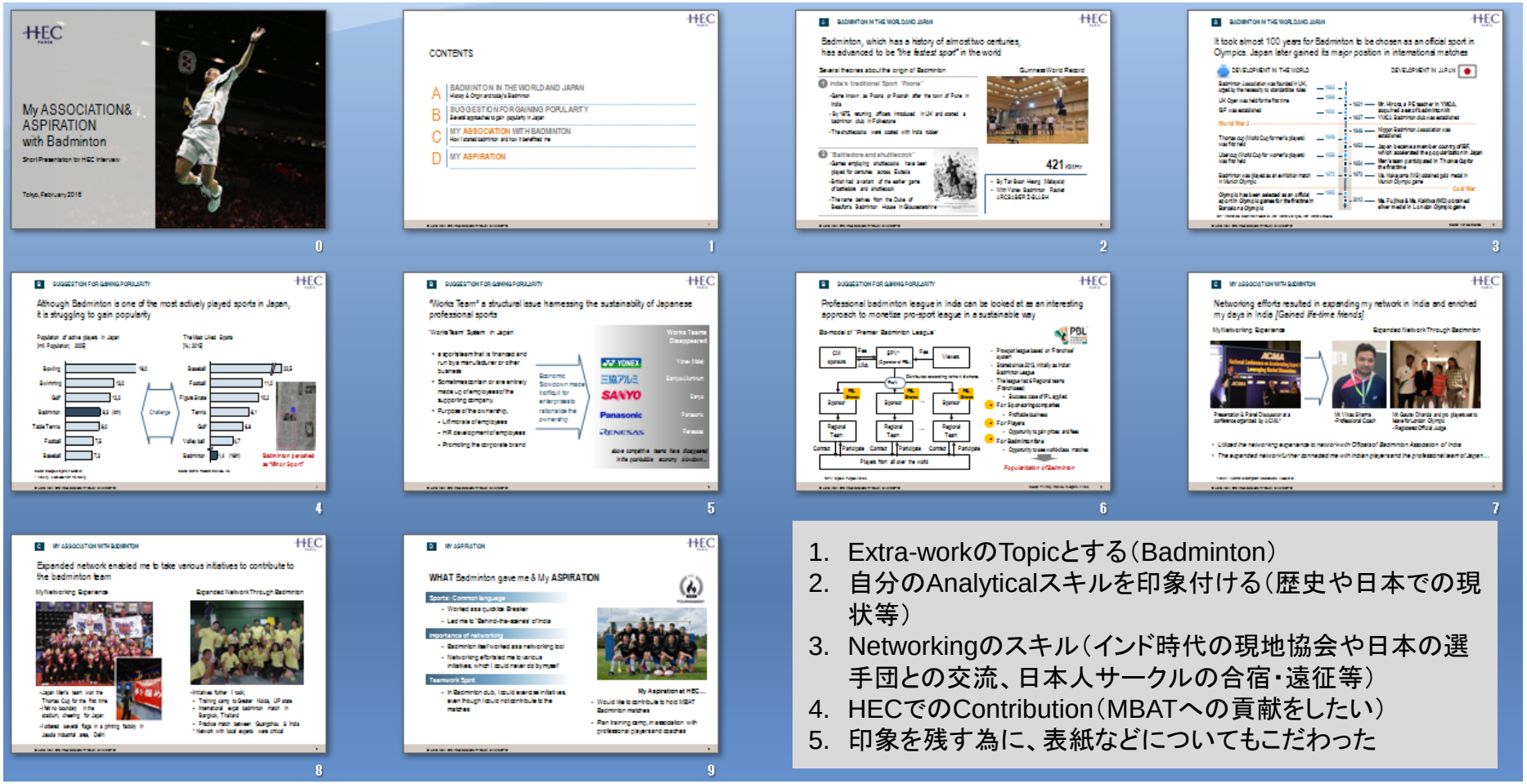
学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
HEC	• 面接官：Alumni (日産のインド人) • 形式：対面（西新宿のスタバ） • 長さ：1.5時間	• 実施：2/28 • Offer：3/4	• 自分はインドに住んでいたので、最初はインドのトピックで盛り上がった。また、勤め先について興味のあることを様々聞きながらアイスブレークできた • プレゼンについても興味深く聞いてくれ、とてもSupportiveな方だった	• アイスブレーク（10分ほど） • Walk through your resume（5分ほど） • プレゼントそれに関するフィードバック、質問等（20分ほど） • Behavioral系の質問（詳しくは覚えていない） • HECに関する質問と具体的なアドバイス。住む所などについても親身にアドバイスいただいた。（インターンがある頃はパリに近いところに住んだ方がいい等。）
	• 面接官：Alumni (某欧州投資銀行の日本人) • 形式：対面（Alumniのオフィス） • 長さ：1時間	• 実施：2/29 • Offer：3/4	• Alumniの方のオフィスにお邪魔してインタビューをした • Alumniの方は親切な方で、面接は和やかなムードだった	• 日本語でのアイスブレークを一通りした後、英語にシフト • プレゼンとそれに関する質問を受けた • 一通りのオーソドックスな質問 • HECを志望する理由と、他の学校との比較、HECを選ぶのか。なぜ2年生のところに行かないのか、等 • HECに関する質問

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

自分について様々な点を印象付けられるようプレゼンを構成した。

HEC向けプレゼン

- ロンドンから帰国後、一晩で作成。10分のプレゼンなので、おそらく6~7枚が限度なので、準備にはそこまで時間がかからない。リハーサルが重要



1. Extra-workのTopicとする（Badminton）
2. 自分のAnalyticalスキルを印象付ける（歴史や日本での現状等）
3. Networkingのスキル（インド時代の現地協会や日本の選手団との交流、日本人サークルの合宿・遠征等）
4. HECでのContribution（MBATへの貢献をしたい）
5. 印象を残す為に、表紙などについてもこだわった

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

間違いなく一番手が込んでいたのが、IMDの面接だった

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
IMD	• Admissionチームによる面接 • 形式：Skype • 長さ：45分	• 面接：3/1 • Offer：3/9 • 当日の詳しいタイムテーブルは次頁 • Assessment出同じ組だった仲間とWhatsappでグループを作成したが、それによるとOfferは同日にリリースされ、エジプト人の彼をのぞく4人に送られようだ（彼はNice Guyだったのだが…）	• Admissionチームからの面接は極めてオーソドックスかつ和やか • 相手はスイス人の若い女性面接官	• Walk through your resume • 卒業後のキャリアのゴール • 強みや弱み、最近の失敗 • Diversityに関する経験 • インドでの仕事の経験 • IMDを志望する理由
	• 即興プレゼン • 面接官：Programme Director • 長さ：準備35分、ﾌﾟﾚｾﾞﾝ5分		• ドイツ人のプログラムダイレクタ-による面接 • ケースの最後に問題文が有ったのを読み飛ばし勝手にプレゼンを作成したが、あまりずれていなかった	• 欧州鉄鋼メーカのケースだった。ガバナンスに関する問題 • 最後に行けばいくほど、前の人と重複して印象が弱まると思い、率先して最初にプレゼンした。うまく問題ミスもExcuseしながらプレゼンはうまくいった
	• 事前配布ケースに関する議論 • 長さ：90分位		• ドイツ人のプログラムダイレクターがFacilitate • 2チームに分かれ、2つのポジションでプレゼン • 内容よりどう仲間とCollaborateするかが評価されている気がする	• 米化学メーカのケースを2週間前に配布されていた。かなり読み込んで臨んだが実際の議論は殆ど内容に関連しなかった。詳細はここに書くのは適切ではないと思うので割愛

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

IMDのOn-Campus Assessmentの進み方

1日目（前日）

予定	時間	コメント
移動	昼	•ジュネーブ~ローザンヌへ鉄道で移動
NRIの先輩とご飯	8時~	•NRIの在校生の先輩とご飯。様々当日の流れをお聞きする
Groupの仲間とご飯	9時~	•翌日一緒に面接を受けるグループの5人とあった。 •但し、先輩とのご飯で遅れたので、ご飯は終了しており、水しか飲まなかった

- とにかくスイスは物価が高かった
- 普通は前日にGroup workの役割を決めるらしい
- 面接を一緒に受けたのは、エジプト人の大学職員、インド人の石油プラント系の会社勤務（オランダ在住）、オランダ人のマッキンゼー、ベルギー人のシンガポール在住の建設会社勤務※このグループは1年を通じて最初の面接組だったらしい

2日目（当日）

予定	時間	コメント
Campus Tour	8：00~8：30	•キャンパスを歩いて回る •Visitした中では一番きれい
面接	8:30~9:15	•前ページを参照
Impromptu Presentationの準備	9:20~9:55	•ケースを読み、プレゼンの紙を書いて準備する（前ページを参照）
Essay	10:00~10:20	•自分を紹介する、という何でもないトピックだったので適当に書いた
プレゼンと議論	10:45~12:00	•前ページを参照
ケースの議論	13:30~15:30	•前ページを参照
講義出席	15:30~17:30	•90人のクラスに出席

- この後、Candidateの仲間たちとご飯をしに外出した

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

INSEADの面接はカジュアルな雰囲気。フィットを見ている

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
INSEAD	• 面接官：Alumni（ファンドの方） • 場所：青山のスタバ • 長さ：1時間	• 面接：3/4 *この日はその後LBSもあり気付かれした日 • Offer：3/17	• とてもフランクで優しい方だった • 日本人とスタバで英語でやるのは恥ずかしいなぁ、と思っていたら、日本語で開始。最初のアイスブレークだけ日本語かと思ったら全部日本語で拍子抜け。	• 英語でしゃべると思っていたのでメインのネタを温存していたが結局話す機会がなかった（リラックスしたムードだったので、逆に鼻息荒く実績を話しだしても変なムードになったかもしれない） • 意図としては、INSEADの校風に合うかを判断するのが重要なので詳しく聞かなくてもOKということらしい
	• 面接官：Alumni（企業家。日本とアメリカのハーフ） • 場所：千駄ヶ谷のRHカフェ • 長さ：1時間ちょい	• 面接：3/5（土曜） • Offer：3/17（出張でインドにいる間に電話がかかってきた）	• 私服でいいといわれたので、とりあえずジャケット+パンツのカジュアルな感じで行った • まさにこれから起業をする、という段階の方で、とても魅力的な方だった	• 1人目のAlumniの方が、2人目の方をご存じだったので、その話をしてアイスブレーク • 最初は中国の景気についてお話しをしていた。ちょうど証券会社の中国経済に関するエコノミストと有ったばかりだったので話が展開 • その後はインドの経験や将来の話を聞かれて回答 • やはり相手がネイティブだとスピードは速くなるが、合いの手がうまいので話が弾み、好感触だった

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

LBSは長くハードと聞いていたが、面接官次第のようだ

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
LBS	• 面接官：Alumni（ヘルスケア） • 形式：対面（Alumniのオフィス） • 長さ：1時間チョイ	• 面接：3/4 • Offer：3/23	• 終始和やか • 2時間にわたる人もいる、と聞いていたのでかなりかかることを覚悟していたが、以外にも1時間チョイで終わった • 最後に、Alumniの方が別のオフィスに移動するということだったので、日本語で少し談笑 • Campus Visitした際に、LBSの近くのWindosrというPubで、在校生先輩と取った写真を見せたりして若干盛り上がった • 志望度が高い学校ではこういう仕込みも重要かも	• Walk through you resume • 失敗した経験とそこからの学び • 他、一連のBehavioral系の質問 • Post MBAのCareer Goal • 1年制のMBAはなぜ受けないのか?（社費で期間的な制約はないか?） • Impromptu Presentation • ※ケースを渡され、それについて10分程度準備し、5分でプレゼンするような形式だった • 最後に言い残したことはありませんか?

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Skypeはごまかしが効かない。Stanfordの面接は若干事務的だった

学校	概要	日時・結果	概要・雰囲気	質問・流れ
Stanford MSx	• 面接官：Admission Manager • 形式：Skype • 長さ：30分	• 面接：3/8 • Offer：3/23 • （プログラムダイレクタ-から早朝に電話。寝ぼけていて誰だかわからずかなりテンションが低い状態で応対してしまった）	• Skypeなのでごまかしがきかないのと、アメリカ人の男性面接官でかっちりしていたので、若干緊張 • 最初にApplication FormやEsayに書いてあることは聞かなくていいので、それ以外の内容を話して、と言われたにもかかわらず、一部重複してしまい、「Essayに書いてある内容を話してくれてありがとう」と言われ、「落ちた」と思ったが、合格していた	• インタビューは30分程度と短かった • 事前にSkypeのタイムスロットをWeb予約するのだが、結構細かい時間の刻みで設定されていたので時間的に焦っていたのかもしれない • Web版のInformation Sessionでも話したことがある、黒人の男性 • 最近失敗した経験 • Diversityについて感じた経験 • 等について聞かれた気がするが、あまり覚えていない

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Interview対策は、準備3割、練習7割。
1校目を受けるとリズムをつかみ、順を追って完成度が上がってくる

Interview対策のステップ

繰り返し

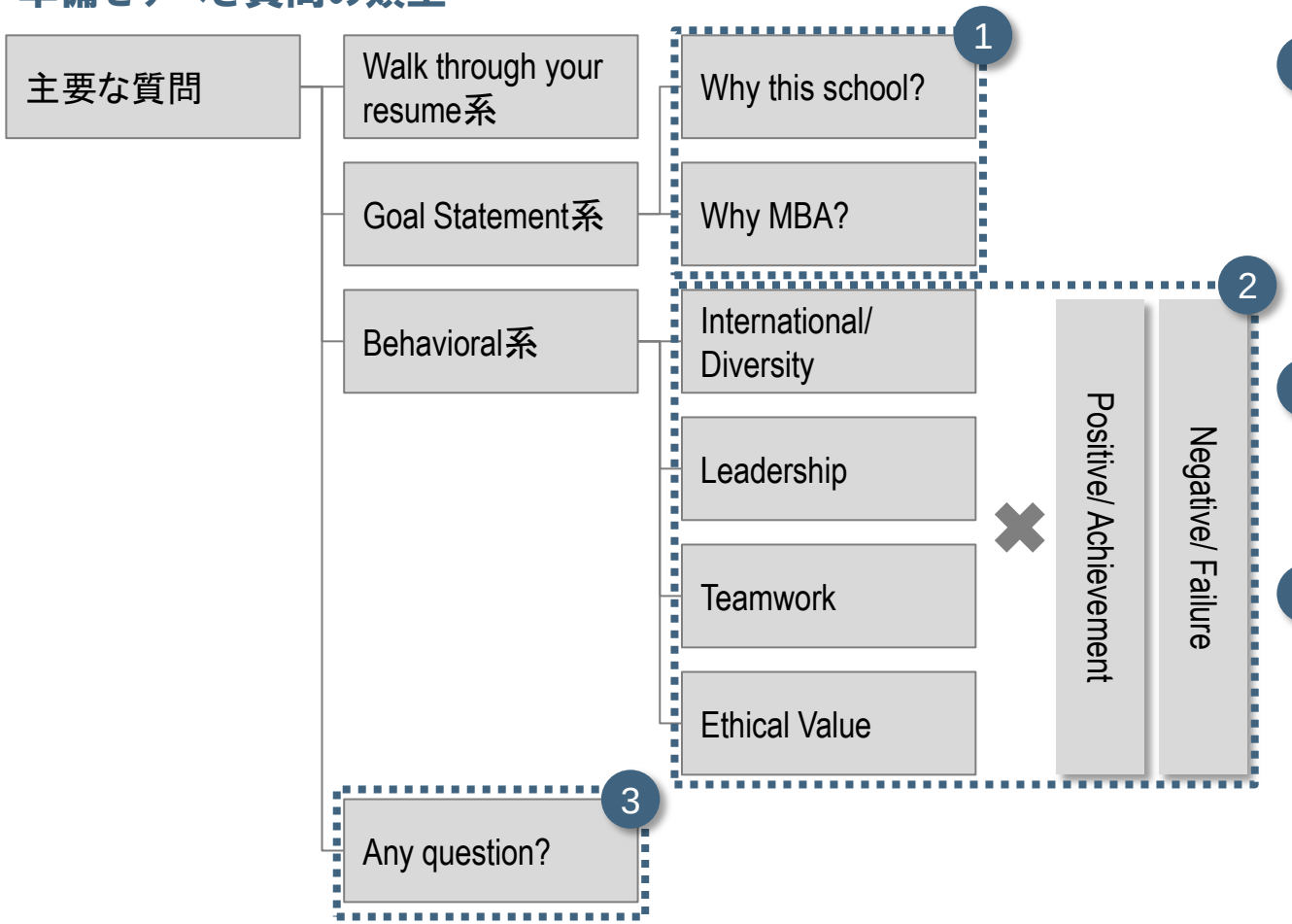
ベースの作成 〉 キー・ストーリ作成 〉 練習（ロールプレイ） 〉 仕上げ 〉 本番

	ベースの作成	キー・ストーリ作成	練習（ロールプレイ）	仕上げ	本番
目的	• インタビューを通じて核となる軸を固める	• Interviewの質問ベースで回答できるようになる	• 準備した内容を最長3分間以内にConciseに伝えられるよう練習	• 回答の完成度を高める	• 本番はあくまでConversationalにし、会話を楽しむ • 予定・準備していた通りに面接が進まないことはあるが、どこでカードを切るか考えながら、フレキシブルに進める • 失敗した場合は次の面接に向けた経験と割切る
内容	• 自分の特性・強み等Interviewを通じて印象付けたいことを決める	• 確実に聞かれるトピック毎にストーリーを作成する	• 自分或いは友達に問題を設定してもらい、ランダムに回答できるかを確認	• 練習の録音を確認、各種表現やClosingを確認し完成度を高める	
方法	• 経歴、Resumeに書いたことなどを並べて内省してみる	• STARフォーミュラ等の形式で回答をBullet Point出準備	• 練習は録音する • 友達に聞いてもらい、フィードバックをもらう	• できるだけNativeのスピーカーにレビューを受ける	

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

準備をすべき質問の類型は下記に集約される

準備をすべき質問の類型



留意点

1. Why MBA?のベースは変える必要がないが、部分的に各学校別にアジャストする。Why this schoolは各校別に作成する
2. Positive / Negative等のバリュエーションを準備する
3. 最後に、なにかしつもんは?というのは非常に重要な瞬間。各学校についてカスタマイズしたものを含めて5個準備する

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

代表的なインタビューの設問の一例は下記の通り。[Positive / Negative]×[仕事/上司/部下/仕事外]等Variationは多数

	代表例	Variation	具体的な聞かれ方
Background系	Walk through your resume (WTYR)	• AcademicやExtracurricularも含めてといわれる場合	• Why don't you tell me about yourself? • What are the three / key things you believe I should learn about you? etc.
International / Diversity Experience	WTYRのFollow upとしてくることが多い	• Shockを受けた経験、助かった経験、重要だと思った経験・・・等 • 訪れた国と日本との比較	• (もしWTYRで北京と上海を訪れた、といった場合) How different did Beijing and Shanghai look to you? • Tell me about the experience that you were shocked by cultural diversity. etc.
Behavioral Teamwork / Leadership/ Conflict/ Ethical Dilemma	Tell me about the time that you took leadership	• Follow-upも多い。例)Collaborative LeadershipがInnovationの為に重要、というと、Innovationにつながった例を具体的に、となる	• Tell me about the time that; - you took leadership - you had a successful teamwork - you experienced a low-performing team - you faced ethical dilemma - you had a conflict with your boss / teammates
Behavioral Failure/ Achievement	Tell me about your recent failure / the biggest achievement	• 必ずしもキャリアだけではなく、様々な局面で聞かれる • DrawbackとShortcomingは違うことには注意	• What is your recent failure and learning? • What is your biggest success? • What is your success in extracurricular activities? • What is your drawback and how you dealt with it?

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

主な質問に対応したキーストーリーについては、下記のような定型フォーマットで準備を進める。（私は15個ほどのストーリーを準備）

STARフォーミュラ出のストーリー準備例（例：チームワークのジレンマについて）

	アイテム	伝えること	例
	Main points	• どんな場面で、何を学んだか?	• プロジェクトにおけるメンバーのアサインを行う際に、人材育成の重要性を学んだ
S	Situation	• 場面や、背景の説明	• 有るプロジェクトで、若手のメンバーにリーダーを任せるかを迷っていた • 「人材育成と顧客満足のジレンマ」に直面
T	Task / Challenge	• どんな問題・指名があったのか	• そのメンバーは〇〇についての経験が浅く、△△のような問題も起こっていた
A	Action / Solution	• どんなアクションを取ったのか	• しかし、人材育成の観点から、そのメンバーを起用し続け、× ×のようなサポートを行った
R	Result	• アクションの結果	• そのメンバーは失敗から学び、同分野での第一人者となった。また、失敗を後輩にも共有し、人材育成が加速した
	Learning	• どんな学びがあったのか?	• いつもシニアに任せたり自分で解決していたら、人材育成が持続性を持たない • 人を育てるには信じて任せることが重要

- 簡単なサマリーを入れる。サマリーがディーテールにならないようにする
- Situationを詳細にしすぎる傾向がある。重要な点だけにフォーカスし、Detailは割愛する
- Learningを全てのケースでいうのは難しいと思う人がいるが、これが一番重要。
- 全体を通じて"Concise Messaging"を意識

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

各校の”Why This School?”についてはバランス良く回答できるように準備する。固有名詞を入れて詳細に話せるとよい

私のWhy This School?の準備フォーマット

アイテム	伝えること	具体的な内容
Goal	• その学校に行くGoal	• Why MBA?が聞かれていたら詳細を説明する必要はない
Curriculum Program	• カリキュラムや学習について優れていると思う理由	• コースや、教授陣、特に習いたい教授 • 理論と実践両方についての学習機会 • その学習をどう活かしたいか
Extra Curricular Activities	• 学外のアクティビティについての貢献	• どんなアクティビティをしたいか（例：クラブ活動、MBAT等各種イベント、Trekの企画等）
Learning Environment	• その学校特有の学習環境	• 立地、近くの産業クラスター（Silicon Fen、Silicon Valley等）、Alumniのネットワーク、特定産業への強み、Teaching Method（ケース、グループワーク、少人数）
Leadership Opportunities	• 自分がリーダーシップを取る機会	• 上記のExtra Curricular Activitiesと重複するが、自分が具体的にどのようなリーダーシップを取りたいか

- 特に、Campus Visitして、その先生のクラスを聴講しているとより説得力を以て言及できる
- 理論だけではないことが重要だと理解していると言及するのも〇
- いかに固有名詞を入れられるかも重要。本当に入りたいClubがあれば事前にSkypeする
- Campus Visitした時に好きだった近くの公園や、学生がよく集まるPub等にも言及
- これまでの課外活動などの実績に紐づけて話せるとよい

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

練習をする中で気づいたことを、自分自身のガイドラインとして書きとめ、実践する

私なりに取りまとめた「やってはいけないこと」・「やるべきこと」

「やってはいけないこと」

- 困った時に天井を見て目が泳いでしまう
（落ち着きと自信のない変な奴だと思われる）
- 用意していたScript通りにいえず言葉が詰まり、Sorryといってしまう
（面接官からしたら何に対してSorryといっているのか?と不思議に見える）
- このくらいは誰でも知っているだろうと思って、Jargonを使ってしまう
（金融用語、コンサルティングのフレームワーク、各種略称等。）
- 予期せぬ質問をされ、どもってしまう
（Sure, I will be happy toや、That's a good question, interesting questionといって時間を稼ぐべき。少なくとも前向きであることをアピール。黙っていると何だこいつ？となる）

「やるべきこと」

- 手は机の上におき、強調したいときにジェスチャーを使う
- 平坦な調子で話さずに、抑揚を使い、時には言葉の調子・ボリュームを変える
- 毎日CNN、WSJの主要トピック（特に金融・経済、日本関連のニュースは外さない。政治や宗教は若干センシティブだが、一応何が起こっているかは確認）を読むこと
（少なくとも3つくらいの学校で経済やインフレについての質問があった）
- 緊張する場合は、息を5秒感深くで吸って2秒止めて5秒でゆっくり吐く、といったブレスコントロールで心を落ち着ける

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

下記の単語や言い回しを無意識的に使っていませんか?
下記の発音をきちんとできますか?(特にNon-nativeは要注意)

- **Interviewでの**NG**ワード例**
  - Foreigner
  - Member
  - Honestly Speaking, To tell you the truth
  - Had to, Tried to
  - Would like to
  - How to say, It's difficult to tell you
  - Therefore, Actually ・・・

聞き手の印象

Business Schoolに行ったら、自分こそForeigner*

Memberにはいろんな意味があり、よくない言葉

それ以外の回答部分は全部Dishonestだったのか?

義務感で仕事してるの? →Our goal was

したいならすれば? →I Will

コミュニケーション能力が低そうな奴だ

口癖のようで耳障り、かつ退屈

- **意外と間違える/いくつか発音の方法がある言葉例**
  - Strategic / Strategically
  - Innovative / Schedule
  - Parameters
  - Hypothesis
  - Autonomy
  - Expertise ・・・

- その他、色々意外と気づかずに間違った発音で使っている言葉もあるはず。発音を正してくれるNative Speakerにレビューしてもあることは大事
- このような指摘も、Devalier先生は逐一指摘をしてくれた。そういった点をくりかえし練習することは、十進にもつながる

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

*Foreign Intuitional Investors等の用語は別

マインドセット：
準備をした後はConversationalに進める。常にFollow-upに備える

実際はこのように進まない ・・・・・▶ 実際はこう進む

面接官
- ○○について教えてください

あなた
- はい、○○○○○○～○○○○○○ ～○○○○○○ ～○○○○○○ ～○○○○○○ ～○○○○○○ ～○○○○○○（5分説明）以上です。

面接官
- 分かりました、次の質問です

- 5分説明を聞いて面接官が黙っているようなことはあり得ない

面接官
- あなたの経歴について教えてください

あなた
- はい私は自動車産業向けのコンサルティングを行って8年になりまして…

面接官
- 自動車というと、最近だとADASが重要になっていますよね

あなた
- 自動車産業では次々に差別化要素を獲得することが重要です。私はコンサルティングを通じて顧客にInnovativeなSolutionを提供してきて…

面接官
- InnovativeなSolutionってなんでしょう。具体的な経験を教えてください

あなた
- えーっと・・・・。すみません、ありませんでした

- 基本的に、自分が喋ったことについてより聞きたい、と思うような突っ込みどころがあれば、follow-upの質問が来る。Follow-upに備えて十分話を膨らませるように準備をする（逆に詳細に説明できない出まかせのようなトピックは、メインのストーリーに入れない）
- むしろ、follow-upが来ることを想定して、あえて一部分については詳細に語らずに、誘導することも1つの手

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Interviewでは、面白いようにDevalier先生の言った通りの質問/受け答えが繰り広げられた

Devalier先生の助言

- AIESECの経験で北京と上海を訪問したことを言ったら、その違いを絶対に聞かれる。説明できるようにしておくこと。例えば、北京は中国の政府機関が集まる首都である一方、上海は日本でいえば大阪のような商業の都のようだ

- インタビューでは、他にどこを受けているかを聞かれる。実際に受けていても近しいような学校の身を応えること。LBSはJealousだから、INSEAD等の学校は言わないこと…

- 最後の質問の時間は、自分を印象付ける格好のタイミングだ。こんな質問をするといい
- I believe in continuous learning post graduation on ongoing business issues. What kind of opportunities are there and how can I contribute?

実際の面接官の質問・受け答え

- なるほど、北京と上海を訪問したんですね。北京と上海に関するあなたの印象は?（→準備していた回答）
- そうですね。どっちが好きでしたか?（→上海です。国際的な商業の都で活気にあふれていました。）
- よかった！Spainでいえばバルセロナは上海のようなところですよ。

- （LBS）他にはどんな学校を受けていますか?
- ESADE、HECです（実際はもっと多くの学校を受験）。
- なぜ、他の学校、例えばINSEAD等を受けないのですか?→MBAは総合的な経験であり、2年間の経験を通じ、在学生動詞の値とワークや、様々なリーダーシップ経験を積むことが大事だと考えています

- 最後に質問はありますか?（→準備していた質問）
- 素晴らしい！そういった問題意識をっもったCandidateがいることをうれしく思います。
- 今、〇〇校では、EMBAのプログラムを開発中で、卒業生にも～～のような協力をお願いしようと思っています

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Interviewでは、面白いようにDevalier先生の言った通りの質問/受け答えが繰り広げられた

Devalier先生の助言	実際の面接官の質問・受け答え
• Wall-street Jounalの経済関連・日本関連のニュースは毎日欠かさずチェックすること	• IEで聞かれた質問：今日新聞を開いたら私が見るであろう3つのトピックは?
• Abenomicsとは何か? • 3つのPrncipleは何か? • Infrationとは何か? MBA受験生であれば自分の言葉で説明できるようにしておくこと	• IE：Infrationとは何か? どんな時に起こるのか? どのくらいが適正な水準と考えられるのか? • 日本でどのようなことが起こっているかを織り交ぜながら、経済学者が2%を適正と推奨していることを回答したことは言うまでもない • 同様のやり取りは、INSEADの面接でもあった

- **以上のような出来事は、どの学校での面接でもあった。**
- **但し、私は、Devalier氏のようなカウンセラーに、カンニングペーパーを求めることを推奨しているのでは決してない。付け焼刃の準備では必ずぼろが出る**
- **重要なのは、良き師を得て、自分で準備を進めることである**

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

志望度の高い学校については、特に志望度を高め、より説得力を持って面接に臨む為にCampus Visitをして損はない

	対象校 （私の場合）	対応方針
Campus Visitを行う必要がある（避けられない）	IMD Cambridge	• Admissionプロセスの一環として、Campus Visitを行うことが前提となっている • 受験プロセスのインタビューでなく、街の中のガイドを行うことで、学生生活を創造しやすくなるように計画されている
Campus Visitを行うのが望ましい	LBS IE Business School	• 必須ではないが、志望度が高い学校である場合は、Visitすることが望ましい • 授業に出席し、実際の授業がどのような雰囲気かを体感する • 在学生に会い、Campusの近隣を歩くことで、在校生。Alumniのみが知りえるトピックを知る（Insider化する）
Campus Visitの優先度が低い	その他	• Campus Visitは特にAdmission Processの一環ではない学校であり、志望度も取り立てて高くない場合、Campus Visitの優先度は低い

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

Campus Visitは本当に必要か？ いつすべきなのか？

- Campus Visitでは必須ではない。しかし、どちらかというとしていた方がいいことには越したことがない
- 何のためにCampus Vistをするのか？ → 私はInterview対策のためにこそするべきと考える
  - 必ずしも、Campus Visitをすれば書類審査（Invitation）確率が上がることはない。
  - もちろん、Campus Vistした時に知った内容をEssayに書けるようにはなる
  - しかしそれだけならば、Information Session出席等の情報収集やAlumni訪問でも代用できる
- （Campus Visitが受験の前提となっている学校は除き）、志望度の高い学校へCampus Vistを行うのは、熱意を見せることと、InterviewでInsider的なネタを臨場感を以て織り込むための手段

- 従って、Campus VisitはEssay提出直後の限られた期間に行うべき（Invitationが来たことが前提）
  - 但し、気休め程度なので、仕事が多忙であったり、体調を崩している等といった優奈状況で、押してまで行く必要はないかもしれない
  - なお、Campusに行ったからには、後述の様々な小物テクニックを活用する
    （例：在校生ゆかりの場所で写真を取り、Interviewerに見せる、学校のグッズを買い、さりげなく面接に持ち込む等）

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（番外編）Campus Visitすると、どの学校も志望度が上がるはず。ぶれない軸が大事

Cambridge Judge Business School

- 歴史的に文化が豊かな町だった
- Cambridgeは数百年もの歴史を持ち、ノーベル賞受賞者や歴史に残る学者を多数輩出した総合大学
- アットホームな町とCollaborativeな雰囲気に、「この環境で学びたい」と思った（Admissionもアットホーム）
- 人と町の魅力度では正直言って一番だった

IE Business School

- Madridの都心の特に洗練された地域に立地する
- 最近MBA用に新しいキャンパスを建設した
- 都心型キャンパスということで機能的かつｺﾝﾊﾟｸﾄ（未訪問だがおそらくINSEAD・Singyも似ているはず）
- Madridは美しい町だった（1泊しかできなかったが）

どの街も、時間がなく回ることができなかったので、Googleから転載したイメージ写真でご容赦ください

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

（番外編）Campus Visitすると、どの学校も志望度が上がるはず。ぶれない軸が大事

London Business School

- 拍子抜けするほど小さなキャンパス
  ※街の中心にあるので仕方ない（都会型キャンパスはIEへのビジットで経験済だったので問題無）
- Londonの都心部にある魅力を実感
- LBS学生ゆかりのPubに行き、先輩や在校生と戯れ、LBSの雰囲気を実感（みんなビール大好き）

IMD

- 4つ訪れた中で最も新しく、きれいなキャンパス（おそらくEMBAでもうかっている）
- 街はきれいだが、物価が高かった
  （最初、地下鉄の乗り方が分からなかった）
- ローザンヌは、ジュネーブから都会っ子が週末に遊びに来るおハイソな街らしい

どの街も、時間がなく回ることができなかったので、Googleから転載したイメージ写真でご容赦ください

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

小物系テクニック：
受け答えがコアに加え、非本質な部分でもダメ押しの差をつける

- 革製ノートパッド・ペン
  - 当初、合皮製の安っぽいものを利用していたが、Devalier先生に即却下された
  - 更にCampus Visitした学校では、学校のショップでロゴ入りのノートを買い、ノートパッドに差し込んで利用した
- Application用写真
  - 伊勢丹で作成。2万円ほどと高いが、やはり伊勢丹のテクニックは半端ないと感じた
  - あまり重要ではないかもしれないが、今後も利用できるとおもい投資
- スーツ・ネクタイ
  - 面接でいかに自信あふれるBusiness Professionalらしく見えるかは非常に重要だと思い、スーツは新調した。（高いものではないが、自分が一番似合っていると思う色柄で、できるだけフォーマルなものを選び、体にフィットできるようサイジングをした）
  - ネクタイの色はスクールカラーに合わせた（IE・LBS：青、Judge：オレンジ・黄等。）
- 各種小物
  - Information Sessionでもらった小物類は、全てとっておき、インタビューなどで極力持っていってさりげなく使うようにした（今考えたら気持ち悪いが。）
  - 第一志望のLBSは、キャンパスビジットした際に、LBSのロゴ入りのパソコンケースを買い、それに革製ノートパッドを入れて持参。しかし面接で触れられることはなかった

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

謝辞

- 私がMBA受験で納得のいく結果を残せたのは、様々なお世話になった方々のおかげです
- この場を借りてお礼をさせてください
  - 社内で推薦状を執筆してくれたかた、派遣に推薦してくれた方々にはお忙しい中いつも親身にサポートをいただき、準備に取り組むことができました
  - Alumniの方には、受験のみならず、今後のキャリアということに関しても深く考えさせられるアドバイスをたくさんいただきました
  - また、InterfaceのDevalier先生には厳しくもいつも核心をついたアドバイスを戴けたことは、エッセー・面接はもちろん、今後のMBA、その後のキャリアについても有用なアドバイスでした
  - 小貫さん、小林さんにはいつも親身に相談に乗っていただき、準備に落ち着いて取り組むことができました
- 今後も、様々な点でお世話になることがあるとおもいますが、どうかよろしくお願いいたします
- 私もお世話になった分、今後MBAコミュニティに対して自分なりの貢献をしていければと思っております

2016年5月　坂本遼平

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO

問い合わせ先

- メール
  - ryoheisakamo1986@gmail.com

- 私はMBA受験に際し、様々な方にお世話になってきました。在学生や、Alumni等、こういったご支援がなければ合格はあり得ませんでした
- 自分も、次の世代のApplicantに対して、できる限りの支援をするのが自分の使命だと考えています

- もちろん、忙しい時は少しお返事できない可能性もありますが、いつでも連絡をください
- この体験談では、あまり深く書けていない部分もありますので、お気軽にご連絡ください

- 泣いても笑っても、チャンスは一度。皆さんにとって後悔しないMBA受験となるよう、応援しています

© 2016 RYOHEI SAKAMOTO